

資料編

- P. 1 平成26年度「教育の情報化に関する研究」に係る実態調査
P. 4 情報モラル校内研修資料（茨城県教育研修センター作成）

【小学校】

- P. 10 全体指導計画（小学校）
P. 11 年間指導計画（各学年毎）
P. 17 学習指導案 総合的な学習の時間（情報モラル）
（小学校第6学年）
P. 21 情報モラル授業ワークシート（小学校）
P. 24 情報モラル通信（小学校）
P. 26 情報モラルチェックシート（教員向け）
P. 27 情報モラル授業ワークシート（小学校）

【中学校】

- P. 29 指導カリキュラム（中学校）
P. 30 学習指導計画（中学校第2学年）
P. 31 学習指導案 総合的な学習の時間（情報モラル）
（中学校第2学年）
P. 35 学習指導案 道徳（中学校第2学年）
P. 37 学習指導案 保健体育科（保健分野）
（中学校第3学年）
P. 39 校内研修資料（中学校）

【高等学校・特別支援学校】

- P. 43 校内研修資料（高等学校）
P. 48 教科「情報」授業ワークシート（高等学校）
P. 51 学習指導案 情報科（社会と情報）（高等学校 第1学年）
P. 52 情報モラルと関連し知っている言葉の変化
（特別支援学校 実態調査）
P. 53 情報モラル授業ワークシート（特別支援学校）

平成26年度「教育の情報化に関する研究」に係る実態調査

□ 調査日 平成26年10月1日～10月17日

□ 調査対象(回答率)

・公立小学校 481校/531校(91%)

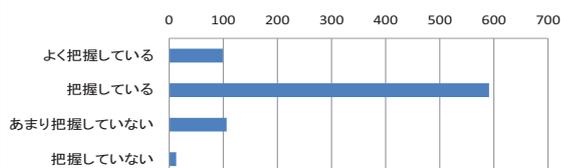
・県立高等学校 94校/97校(97%)

・県立中等教育学校 2校/2校(100%)

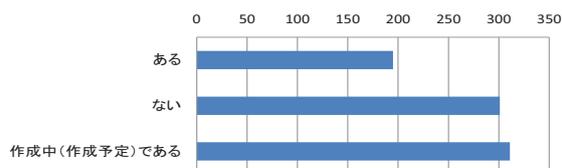
・公立中学校 209校/226校(92%)
(県立日立第一高等学校附属中学を含む)

・公立特別支援学校 23校/23校(100%)
(日立市立日立特別支援学校を含む)

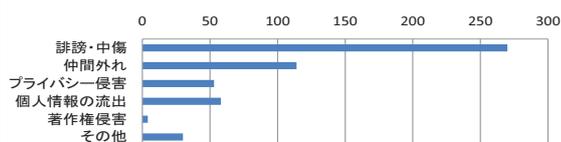
問:4 児童生徒の携帯電話の所持率やネット活用状況を把握していますか。



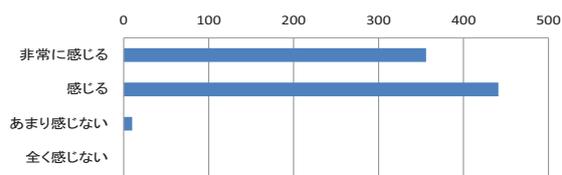
問:9 貴校には、ネットトラブル等があった場合の対応マニュアルはありますか。



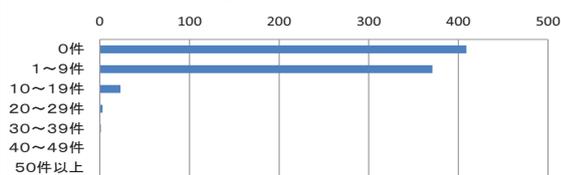
問:5 昨年度、貴校においてネットトラブルに関する事例は発生しましたか。(ネットトラブル事例がある場合のみ複数選択可)



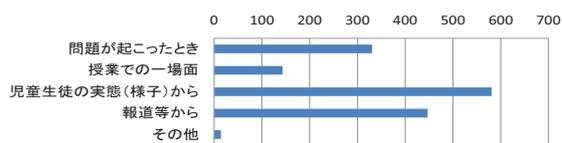
問:10 あなたは、学校において情報モラル教育を行う必要性を感じますか。



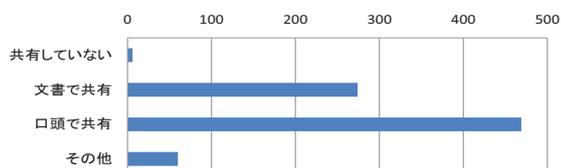
問:6 貴校において、ネットトラブルに関する相談事例は年間どれくらいありますか。



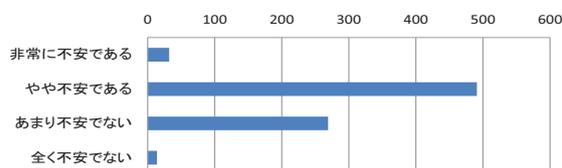
問:11 どのようなときに情報モラル教育の必要性を感じますか。(複数選択可 設問10で「非常に感じる」、「感じる」を選択した場合のみ回答)



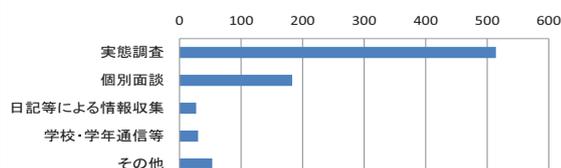
問:7 貴校において、ネットトラブルがあった場合、どのようにして教員間の情報共有をしていますか。



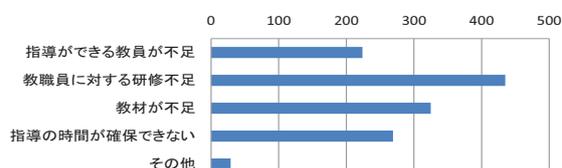
問:12 情報モラル教育を実践するに当たって、不安に感じていることがありますか。

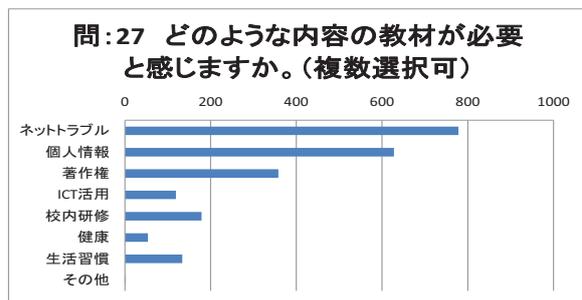
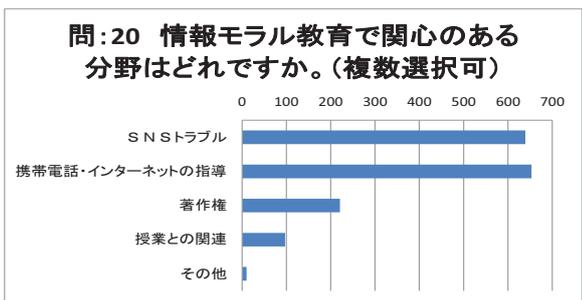
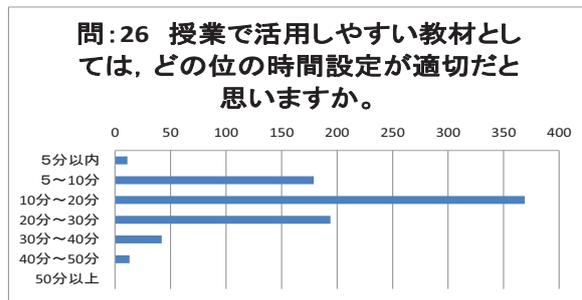
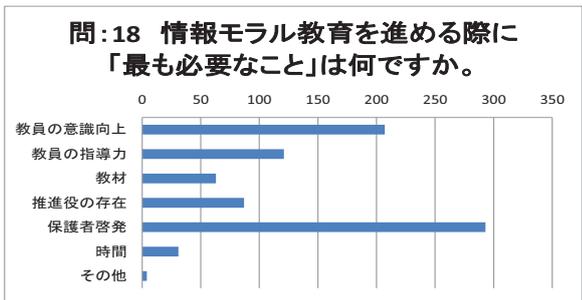
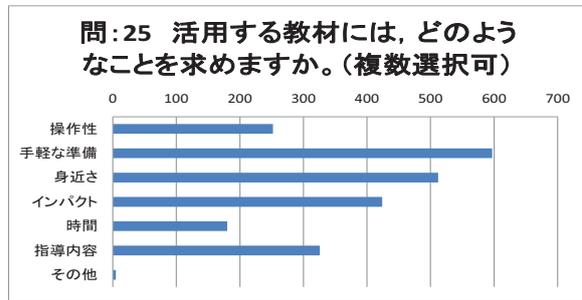
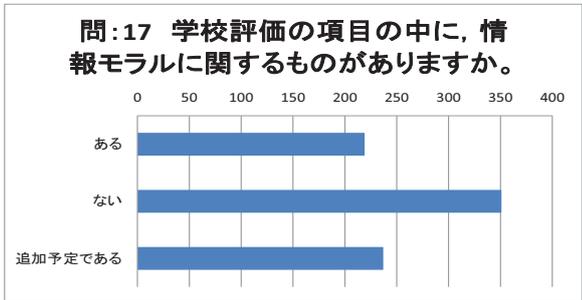
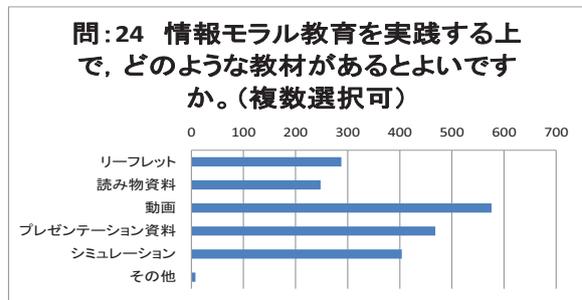
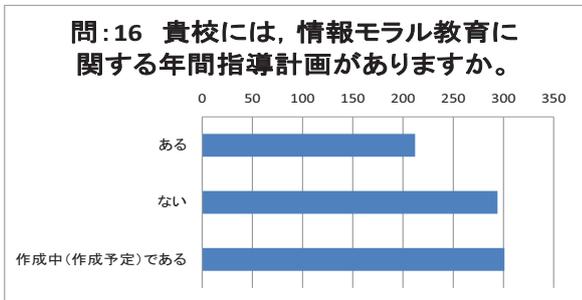
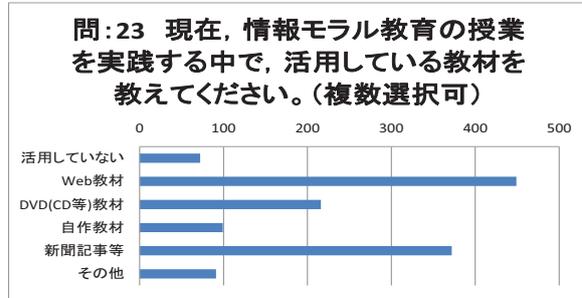
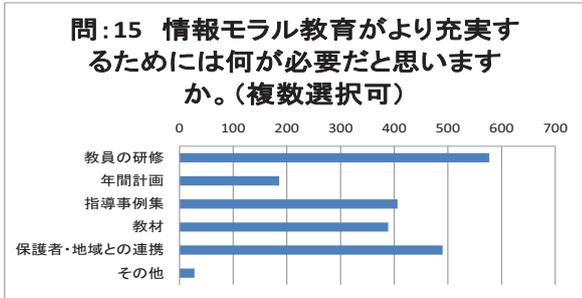
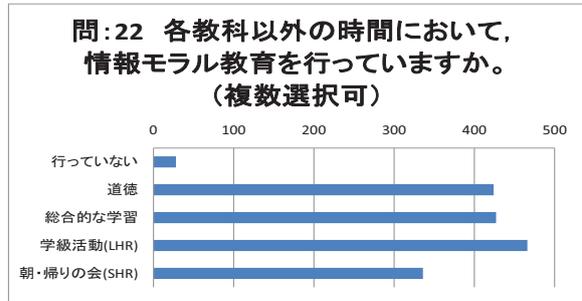
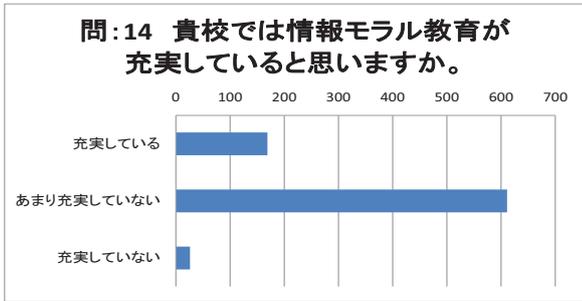


問:8 ネットトラブルの情報収集のために、貴校では児童生徒に対してどのような取組をしていますか。

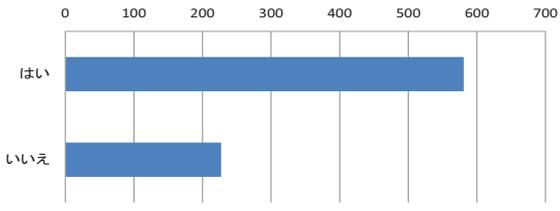


問:13 情報モラル教育を実践するに当たって問題点はありますか。(問題がある場合のみ複数選択可)

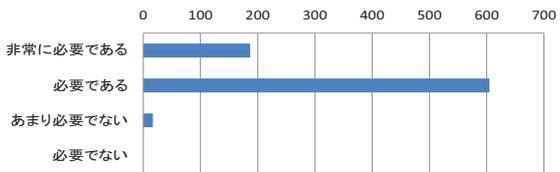




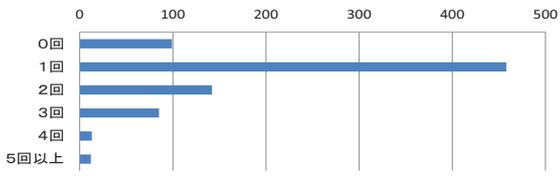
問:28 情報モラルに関する校内研修を実施したことがありますか。



問:29 教職員に対する情報モラル教育の研修が必要であると思いますか。



問:30 貴校では、保護者向けの啓発活動(情報モラル)を年間に何回行っていますか。





情報社会の進展により、インターネットや携帯電話等の普及が急速に進む中で、インターネットの掲示板や携帯電話のメールによる「ネットいじめ」が多発しています。また、いじめ防止対策推進法(平成 25 年 9 月 28 日施行)においても、「インターネットを通じて行われるいじめに対する対策の推進」が盛り込まれました。こうした現状の中で各学校においては、情報モラル教育等の校内研修を進めていくことが重要となっています。

そこで、本テキストを校内研修等で活用いただき、情報モラル教育の正しい理解と積極的な取組をお願いいたします。

情報モラル教育校内研修資料

Contents

情報モラル教育の重要性

- 1 ネット社会の現状
- 2 情報モラルとは
- 3 情報モラル教育の内容
- 4 学校全体で取り組む情報モラル指導の要点

インターネット上のトラブル対応

- 1 教職員が持つべき知識
- 2 「ネット上のいじめ」等の対応

情報モラル教育に関する参考資料

1 ネット社会の現状

(1) 小中学生の携帯電話事情

小中学生の携帯電話の所有状況

(%)	所持率	スマートフォン の割合	携帯電話による インターネット利用
小学生 (計)	32.5	27.1	36.5
男子	27.6	26.1	35.9
女子	37.5	27.8	36.9
中学生 (計)	53.6	63.8	76.4
男子	48.0	68.6	77.0
女子	59.4	68.1	75.9

平成25年度 携帯電話・インターネット利用に関する実態調査 (平成26年3月 茨城県教育委員会)

- ・設定の有無を把握している児童生徒において、小学生は5割程度、中学生は4割程度がフィルタリングを設定していない。
- ・小中高と学校種が上がるにつれ、保護者よりも子供の方がインターネットに詳しくなる傾向がある。
- ・保護者と子供の携帯電話に対する認識の違い
 - 子供 — メール、ゲーム、ネットでのコミュニケーションツール
 - 保護者 — 緊急連絡用、子供の居場所確認、家族とのコミュニケーション

(2) 無料通話アプリの利用が激増

① 「無料通話アプリ」とは

- ・登録した知人同士がやりとりする手段として利用が激増している。
- ・インターネットを通じて見知らぬ人同士がつながるツールとして利用されている。
- ・無料でメッセージの送受信や画像のやり取り、通話等ができるものに人気がある。
- ・ユーザーは個人ページに顔写真などのプロフィールと個人IDを登録して利用している。
- ・携帯電話の電話帳に登録されている人は、原則として「友だち」表示されるものもある。

② いじめの温床 「学校裏サイト」から「無料通話アプリ」へ

- ・閉鎖性の高いツール — 認証を必要とするため外部から実態が把握しにくい。
- ・無視や悪口が怖い。
- ・返信しないと不安（「既読」表示、即座に返信しなければならないことへの不安）
- ・グループ機能を使って仲間はずれをつくることもある。

③ 現実社会でのいじめとネット上のいじめの違い

- ・時間や場所を選ばないため、家が安全な場所にはならない。
- ・記憶より記録に残る。
- ・可視化の範囲が拡大する。

(3) 情報技術の利用による文化的・社会的なコミュニケーションの範囲や深度などが変化する特性

- ・文字ベースのコミュニケーションだけでは誤解が生じやすい。

→ 相手の立場を考え、思いやる気持ちを持つことが大切である。

- ・社会的な影響力が強い。

→ 責任ある情報発信が求められる。

- ・ネット上では、相手の顔が見えない。

→ 匿名性や、その匿名性を悪用した「なりすまし」に注意する。

- ・ネット上の有害で悪意のある情報が大人も子供も区別なく流れ込んでくる。

(4) 子供を取り巻くネット社会

- ・情報社会における技術の急激な進歩、情報機器の急速な普及
- ・社会全体がその利便性を受け入れ、日常的に利用
- ・子供も大人も同じ環境で、同じ機器を利用して生活

→ 子供たちが、大人社会の犯罪や事件に巻き込まれている。

(5) 子供の情報環境の変化

- ・子供たちの中に情報機器が急速に普及
- ・子供同士、子供と大人、子供と「知らない大人」というコミュニケーションが発生

その結果・・・

子供同士によるネットいじめ、電子メールや掲示板を利用した誹謗中傷、出会い系サイトなどへのアクセスにより、事件等に巻き込まれる危険性が高い。

2 情報モラルとは

(1) 情報モラル … 情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度

「情報社会に参画する態度」の中の重要な柱

- 教科横断で実施されることが明記（小・中学校学習指導要領《平成20年3月》総則）

→ 情報モラル教育を体系的に推進していく必要性

(2) 学校全体で情報モラルに取り組むことの重要性

- ・情報モラルの体系的な指導が必要
- ・学校ごとに年間指導計画を作成し、学校全体で取り組み、全ての子供への指導が必要

・対処療法的な指導からの脱却 → 子供たちにメッセージを送り続けることが大切

3 情報モラル教育の内容

(1) 日常モラルの側面【心を磨く分野】

情報社会の倫理

法の理解と遵守

情報社会における正しい判断や望ましい態度の育成

① 情報社会の倫理

- ・情報に関する自他の権利を尊重して責任ある行動を取る態度

② 法の理解と遵守

- ・情報社会におけるルールやマナー，法律があることを理解し，それらを守ろうとする態度

(2) 安全の側面【知恵を磨く分野】

安全への知恵

情報セキュリティ

情報社会で安全に生活するための危険回避の方法の理解や情報セキュリティの知識・技術，健康への意識の向上

① 安全への知恵

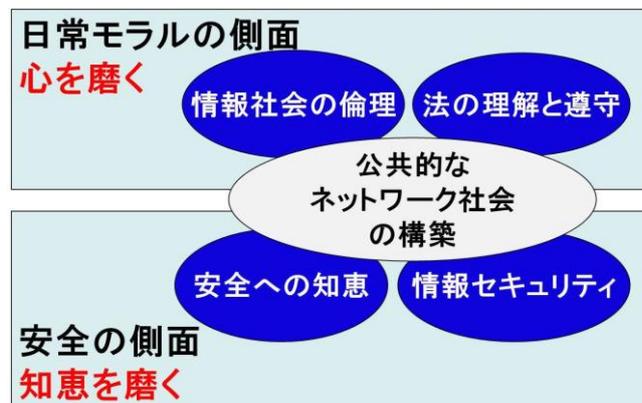
- ・情報社会の危険から身を守り，危険を予測し，被害を予防する知識や態度

② 情報セキュリティ

- ・生活の中で必要となる情報セキュリティの基本的な考え方を理解し，情報セキュリティを確保するための対策・対応についての知識

(3) 公共的なネットワーク社会の構築

【心を磨く分野】と【知恵を磨く分野】を土台に，情報社会の一員として公共的な意識を持ち，適切な判断や行動を取る態度



情報モラル指導モデルカリキュラム表【情報モラル教育実践ガイダンス P3～6】

国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/jouhoumoral/>

資料のPDF版と情報モラル指導モデルカリキュラム表のExcel版をダウンロードできる。

4 学校全体で取り組む情報モラル指導の要点

(1) 児童生徒の実態の把握

- ・自校の携帯電話の所有状況
- ・インターネット上のトラブルなどの経験

(2) 家庭・地域との連携

トラブルの多くは学校以外の場所

P T A活動年間計画に情報モラル研修会を位置付け，保護者への啓発

- ・インターネットや携帯電話に関する児童生徒と保護者の意識のズレ
- ・保護者としての責任

外部機関の活用

- ・茨城県警察本部 生活安全部少年課 少年サポートセンター
- ・「茨城県メディア教育指導員」（茨城県知事公室 女性青少年課）
- ・携帯電話会社等の民間企業

インターネット上のトラブル対応

1 教職員が持つべき知識

(1) インターネット上で起きていることに関する知識

どのようなサイトが存在するかを知り、状況把握をしっかりと行う必要性

- ・自分の学校のことが書かれている匿名掲示板
- ・生徒が運営しているブログやSNS
- ・出会い系サイト、アダルトサイト等

なりすまし、学校裏サイト、
ネットいじめ、ネット上の隠語の理解等

→ **トラブルの未然防止、早期発見**

(2) 法律や情報セキュリティの知識

保護者や教職員が気付いたときは手遅れであることが多い。教職員が法律の正しい知識を持ち、児童生徒の指導に当たる必要がある。

- ・著作権法
- ・個人情報保護に関する法令（茨城県個人情報保護に関する条例）
- ・学校における生徒等に関する個人情報の取扱いに係るガイドライン（平成17年茨城県教育委員会）
- ・その他の法令
（不正アクセス行為の禁止等に関する法律、プロバイダ責任法、出会い系サイト規制法等）
- ・情報セキュリティ対策（パスワード・メディアの管理、ウィルス・無線LAN対策等）
- ・情報セキュリティ10ヶ条（茨城県情報セキュリティ委員会）

2 「ネット上のいじめ」等の対応

(1) 書き込み内容の確認

- ・書き込みのあった掲示板等のURLを控える。（プリントアウト、デジタルカメラで撮影等）

(2) 掲示板等の管理者に削除依頼

- ・掲示板等のトップページ等から連絡先を探し、メールで削除依頼をする。
- ・削除依頼を行うメールについて、個人の所属・氏名などを記載する必要はない。
（個人情報を悪用される場合がある。）

(3) 掲示板等のプロバイダに削除依頼

- ・掲示板等の管理者に削除依頼しても削除されない場合や、管理者の連絡先が不明な場合などは、プロバイダ（掲示板サービス提供会社等）へ削除依頼をする。

(4) 削除依頼しても削除されない場合

- ・警察や法務局・地方法務局に相談する。

いじめ防止対策推進法（平成25年9月28日施行）

インターネットを使ったいじめが、近年深刻さを増している。法律では、被害者やその保護者は、インターネット上に発信された内容の削除を求めたり、発信者情報の開示を求めたりする場合、法務局の協力を求めることができるとしている。国や自治体が、インターネットのいじめを監視する機関や団体を支援することも盛り込まれた。

「ネット上のいじめ」に関する対応マニュアル・事例集（学校・教員向け）[文部科学省 平成20年]

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/11/08111701/001.pdf

インターネットトラブル事例集 [総務省 平成26年]

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html

情報モラル教育に関する参考資料

「情報モラル教育」って？

- ・ 情報モラル指導ポータルサイト「やってみよう情報モラル教育」
http://jnk4.info/www/moral-guidebook-2007/
- ・ 「情報モラル」指導実践キックオフガイド
http://www.nctd.go.jp/5min_moral/contents/download/moralguide_all.pdf
- ・ 情報モラル教育実践ガイダンス
〔国立教育政策研究所〕 http://www.nier.go.jp/kaihatsu/jouhoumoral/
- ・ 情報モラル指導セミナー「5分で分かる情報モラル」(動画)
〔(財)コンピュータ教育開発センター〕 http://www.nctd.go.jp/5min_moral/index.html
- ・ 情報モラル指導者研修ハンドブック
〔(財)コンピュータ教育開発センター〕 http://www.cec.or.jp/monbu/pdf/h21jmorall/
- ・ 情報モラル等指導サポート事業
〔(財)コンピュータ教育開発センター〕 http://www.nctd.go.jp/g_support/index.html
- ・ みやぎの情報モラル総合サイト
〔宮城県教育研修センター〕 http://midori.edu-c.pref.miyagi.jp/moral/index.html
- ・ 教育の情報化に関する手引
〔文部科学省〕 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm

「情報モラル教育」の授業を行うには？

- ・ 情報モラル教材ポータルサイト「ネット社会の歩き方」
〔(財)コンピュータ教育開発センター〕 http://www.cec.or.jp/net-walk/
- ・ インターネット活用のための情報モラル指導事例集
〔(財)コンピュータ教育開発センター〕 http://www.cec.or.jp/books/H12/pdf/b01.pdf
- ・ “情報モラル”授業サポートセンター
〔(財)コンピュータ教育開発センター〕 http://www.nctd.go.jp/support/index.html
- ・ 親子のためのネット社会の歩き方セミナー
〔(財)コンピュータ教育開発センター〕 http://www.cec.or.jp/jka/h21oyako_index.html
- ・ キッズ・パトロール
〔警察庁〕 http://www.cyberpolice.go.jp/kids/index.html
- ・ 文部科学省 道徳教育（小学校道徳・中学校道徳 読み物資料集）
〔文部科学省〕 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/

ネットトラブルへの対処に関連することについて調べるには？

- ・ 安心インターネットライフ - ネット社会の7つの常識-
〔(財)マルチメディア振興センター〕 http://www.e-netcaravan.jp/pdf/newguide_1.pdf
- ・ 「ネット上のいじめ」に関する対応マニュアル・事例集（学校・教員向け）
〔文部科学省〕 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/11/08111701/001.pdf
- ・ インターネットトラブル事例集
〔総務省〕 http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html

情報モラル全体指導計画

領域	取扱い教科等	分類	1年	2年	3年	4年	5年	6年
心を磨く	道徳朝の会等	1・情報社会の倫理	約束や決まりを守る	発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ	相手への影響を考慮して行動する	他人や社会への影響を考慮して行動する		
		2・法の理解と遵守	人の作ったものを大切にすることを心もつ	情報に関する自分や他者の権利を尊重する	自分の情報や他人の情報を大切に扱う	何がルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に行わない	「ルールや決まりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重する	情報にも、自他の権利があることを知り、尊重する
知恵を磨く	総合的な学習の時間朝の会等	3・安全への知恵	大人と一緒に使い、危険に近づかない	情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる	危険に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	不適切な情報に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	予測される危険の内容がわかり、避ける	不適切な情報であるものを認識し、対応できる
		4・情報セキュリティ	決められた利用の時間や約束を守る	情報を正しく安全に利用すること	安全や健康を害するようない行動を抑制できる	健康のために利用時間を決め守る	健康を害するようない行動を自制する	人の安全を脅かす行為を行わない
随時		5・公共的なネットワーク社会の構築		情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる				情報の破壊や流出を守る方法を知る
				情報社会の一員として、公共的な意識を持つ				

情報モラル年間指導計画（1年）

	1学期	2学期	3学期
指導目標	約束や決まりを守る	大人と一緒に使い，危険に近づかない	決められた利用の時間や約束を守る
分類	1 情報社会の倫理	3 安全への知恵	3 安全への知恵
取扱い教科等	道徳	朝の会等	朝の会等
指導時期	5月	9月	1月
指導時間	20分	20分	20分
具体的な指導事項	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 道徳の内容項目4(1)約束やきまりを守り，みんなが使う物を大切にする，と関連させる </div> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータやメディアを使う場合に、決められたルールを守る ・みんなで決めた約束や決まりを守る ・うそをついたりごまかしたりしない 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけでインターネットを利用しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータやメディアを使う場合は、決められた利用の時間や約束を守る
学習内容	プレゼンテーション	プレゼンテーション	プレゼンテーション ワークシート
活用する教材	プレゼンテーション① ・コンピューたしつのみまり	プレゼンテーション② ・いんたーねっとのきけん ・けんこうなつかいかた	プレゼンテーション③ ・コンピューた，ゲーム，テレビのやくそく ワークシート①

※学習内容が「インターネット」、「プレゼンテーション」のときは，コンピュータや提示装置（プロジェクター，電子黒板など），インターネットを使うことができる環境が必要です。

情報モラル年間指導計画（3年）

	1 学期	2 学期	3 学期
指導目標	相手への影響を考えて行動する	危険に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	健康のために利用時間を決め守る
分類	1 情報社会の倫理	3 安全への知恵	3 安全への知恵
取扱い教科等	朝の会等	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間
指導時期	4 月	9 月	1 月
指導時間	20分	20分	20分
具体的な指導事項	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークで誹謗中傷を行わない 受け手の気持ちを考えて情報発信する 	<ul style="list-style-type: none"> 見知らぬ人からのメールは、大人に知らせる 変なメッセージを受け取ったら、すぐ大人に知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータやメディアを利用する時間を決める
学習内容	インターネット（テキスト）	インターネット（アニメ） 1_1:16 2_1:51 ワークシート	インターネット（テキスト）
活用する教材	インターネット上でのコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> インターネットに書きこむときは、見る人の気持ちを考えよう 	1 知らない番号、アドレスには注意! 2 インターネットのサギ ワークシート②	ルールやマナーを守って使おう ■インターネットにのめりこまないようにしよう の項目のみ扱う ワークシート③
指導目標		情報には誤ったものもあることに気づく	
分類		3 安全への知恵	
取扱い教科等		総合的な学習の時間	
指導時期		11月	
指導時間		10分	
具体的な指導事項		<ul style="list-style-type: none"> 情報を鵜呑みにしない 	
学習内容		インターネット（テキスト）	
活用する教材		ホームページを見るときに注意 <ul style="list-style-type: none"> 悪いページに気をつけよう 	

※学習内容が「インターネット」、「プレゼンテーション」のときは、コンピュータや提示装置（プロジェクター、電子黒板など）、インターネットを使うことができる環境が必要です。

情報モラル年間指導計画（4年）

	1 学期	2 学期	3 学期
指導目標	自分の情報や他人の情報を大切にする	情報の発信や情報をやりとりする場合のルール・マナーを知り、守る	個人情報は、他人にもらさない
分類	1 情報社会の倫理	2 法の理解と遵守	3 安全への知恵
取扱い教科等	朝の会等	朝の会等	総合的な学習の時間
指導時期	4 月	9 月	1 月
指導時間	20 分	20 分	20 分
具体的な指導事項	<ul style="list-style-type: none"> ネット社会でも普段の生活でも、他の人との関わり方を大切にする 情報の提供に対し、感謝と助け合いの精神を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ルールやエチケットを知り、守る 	<ul style="list-style-type: none"> 掲示板やブログなどの安全な利用方法を知る
学習内容	プレゼンテーション ワークシート	リーフレット	インターネット（アニメ）2:01 ワークシート
活用する教材	プレゼンテーション⑥ <ul style="list-style-type: none"> 自分の情報を守りましょう 他人の情報を大切に ワークシート④	インターネット6つの約束 ※リーフレットを両面印刷して児童に配付	住所や電話番号をおしえるのは慎重に <ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取扱い ワークシート⑦
指導目標	不適切な情報に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	認証の重要性を理解し、正しく利用できる	
分類	3 安全への知恵	4 情報セキュリティ	
取扱い教科等	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	
指導時期	6 月	12 月	
指導時間	45 分	20 分	
具体的な指導事項	<ul style="list-style-type: none"> 情報の中には、モラルに反するものや誤ったものがあることを知る 	<ul style="list-style-type: none"> パスワードは誰にも教えない 自分の使った端末をそのまま放置しない 	
学習内容	インターネット（実写）9:59 ワークシート	インターネット（アニメ）2:57 ワークシート	
活用する教材	一度 押しただけで… <ul style="list-style-type: none"> 違法サイト 親に相談を ワークシート⑤	他人になりすまして（パスワード） <ul style="list-style-type: none"> パスワードの管理 不正アクセス ワークシート⑥	

※学習内容が「インターネット」、「プレゼンテーション」のときは、コンピュータや提示装置（プロジェクター、電子黒板など）、インターネットを使うことができる環境が必要です。

情報モラル年間指導計画（5年）

	1 学期	2 学期	3 学期
指導目標	他人や社会への影響を考慮して行動する	何がルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に行わない	健康を害するような行動を自制する
分類	1 情報社会の倫理	2 法の理解と遵守	3 安全への知恵
取扱い教科等	道徳	朝の会等	総合的な学習の時間
指導時期	4 月	9 月	1 月
指導時間	45分	20分	45分
具体的な指導事項	<ul style="list-style-type: none"> ネット上の迷惑行為にどのようなものがあるかを知る 相手の状況を踏まえて、情報発信する チェーンメールが社会に与える影響を知り、行わない 携帯のマナーを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ルールやエチケットを守らない事例を知り、何が良くないのか考える 	<ul style="list-style-type: none"> 健康を害するような行動を自制する
学習内容	インターネット（アニメ）2:48 ワークシート	インターネット（テキスト）	インターネット（実写）9:41 ワークシート
活用する教材	3 ケータイで注意すること <ul style="list-style-type: none"> メールで誤解が生まれることも チェーンメールは送らない！ などを選択してみせる ワークシート⑧	インターネットを利用するためのルールやマナー集 <ul style="list-style-type: none"> 1 章（身につけること、覚えておくこと） 2 章（法律で決められていること） 	ネットゲームに夢中になると <ul style="list-style-type: none"> けじめをつけてインターネットを使うための判断力を身につける ワークシート⑪
指導目標	予測される危険の内容がわかり、避ける	情報の正確さを判断する方法を知る	不正使用や不正アクセスされないように利用できる
分類	3 安全への知恵	3 安全への知恵	4 情報セキュリティ
取扱い教科等	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間
指導時期	6 月	12 月	2 月
指導時間	20分	45分	20分
具体的な指導事項	<ul style="list-style-type: none"> 出会い系、詐欺、成りすましなどの問題点や犯罪性を知り、避ける方法を考える 犯罪に巻き込まれない知恵を学ぶ ネットで知り合った人に子どもだけで会いに行かない 	<ul style="list-style-type: none"> 受け取った情報だけを信じて判断せず、別の方法で確かめる 	<ul style="list-style-type: none"> パスワードは自分で管理しなければならないことを理解する どのようにして個人情報漏れていくかを知る
学習内容	インターネット（テキスト） ワークシート	プレゼンテーション ワークシート	インターネット（アニメ）1:18 ワークシート
活用する教材	どんな危険（きけん）があるの？ <ul style="list-style-type: none"> ウイルスってなに？ コンピュータやサービスを勝手に使われる など ワークシート⑨	プレゼンテーション⑦ <ul style="list-style-type: none"> この情報を信じますか？ 正しさを確かめるために ワークシート⑩	盗まれちゃった個人情報 <ul style="list-style-type: none"> パスワードの取扱い方や注意点を知る ワークシート⑫

※学習内容が「インターネット」、「プレゼンテーション」のときは、コンピュータや提示装置（プロジェクター、電子黒板など）、インターネットを使うことができる環境が必要です。

情報モラル年間指導計画（6年）

	1 学期	2 学期	3 学期
指導目標	情報にも、自他の権利があることを知り、尊重する	不適切な情報であるものを認識し、対応できる	人の安全を脅かす行為を行わない
分類	1 情報社会の倫理	3 安全への知恵	3 安全への知恵
取扱い教科等	道徳	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間
指導時期	4 月	9 月	1 月
指導時間	45分	20分	20分
具体的な指導事項	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 道徳の内容項目4(1)公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす、と関連させる </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる意見や立場を尊重する ・人の著作物には、著作権があることを知り、尊重する 	<ul style="list-style-type: none"> ・迷惑メール（あるいは危険なメール）に対する知識を身につける ・匿名性の利点と危険性を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の安全を脅かす行為を行わない
学習内容	インターネット（アニメ）5:36 ワークシート	インターネット（テキスト）	インターネット（アニメ）8:34 ワークシート
活用する教材	著作権の尊重 ・著作物はルールに従って使用する態度を身につける ワークシート⑬ ※中高生向けのコンテンツのため、後半のまとめは省略してもよい	メールを利用するときの注意 ・迷惑（めいわく）メール ・チェーンメール ・ウイルス付きのメール	キミはどっち？ - パソコン・ケータイ・スマートフォン 正しい使い方 ・インターネットを利用する上で守るべきマナーや自分の大切な情報を守ることや - パソコンのウイルス対策について学ぶ ワークシート⑮
指導目標	「ルールや決まりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重する 契約行為の意味を知り、勝手な判断で行わない	情報の破壊や流出を守る方法を知る	
分類	2 法の理解と遵守	4 情報セキュリティ	
取扱い教科等	道徳	総合的な学習の時間	
指導時期	6 月	12 月	
指導時間	45分	20分	
具体的な指導事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールがなかったらどうなるか、を考える ・「はい」や「同意」のボタンは、むやみに押さない ・子どもだけで、売ったり買ったりしない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルスに対する簡単な知識を知る ・自分の端末は人に貸さない ・ダウンロードには危険が伴うものがあることを知る 	
学習内容	インターネット（実写）8:05 ワークシート	インターネット（アニメ）2:02	
活用する教材	個人情報を守るのは自分だよ ・ネット被害の実際を知り、安全にインターネットを活用する態度を学ぶ ワークシート⑭	コンピュータウイルスに注意 ・コンピュータウイルス被害にあわないための対策を知る	

※学習内容が「インターネット」、「プレゼンテーション」のときは、コンピュータや提示装置（プロジェクター、電子黒板など）、インターネットを使うことができる環境が必要です。

1 題材名 なりすましトラブルについて考えよう

2 「モデルカリキュラム」における位置づけ

大目標：情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。

中目標：予測される危険の内容がわかり、避ける。

小目標：詐欺やなりすましなどの問題点や犯罪性を知り、避ける方法を考え、犯罪に巻き込まれない知恵を学ぶ。

3 題材の目標

なりすましの被害について知り、インターネット上での出会いに対して警戒心や注意を高め、避ける方法を考えることができる。

4 指導にあたって

(1) 児童の実態(男子14名 女子14名 計28名) 25名実施 平成27年7月3日

1	あなたは自分が使える携帯電話・スマホを持っていますか。	はい 18名	いいえ 7名
2	様々な情報の中から、不適切な情報であるものを認識し、対応できますか。	できる 12名	だいたいできる 13名
3	自分の個人情報を、他の人にもらさないことができますか。	できる 21名	だいたいできる 4名
4	インターネット中に金銭を支払う画面になったらどうしますか。 ・お父さんやお母さんに相談する。警察に相談する。 ・むやみにボタンを押さず、そのままにして親に知らせる。 ・無視をする。		
5	ブログに友達のことや写真を載せることについてどうも思いますか。 ・個人情報が漏れるから、いけないと思う。 ・相手に聞いていいと言われたら載せる。 ・とても迷惑で犯罪にもつながる。		
6	情報モラル診断サービスの調査結果	27名実施	
		合格 5名	
		不合格 22名	
※情報モラル診断サービスは、カスペルスキーと静岡大学が共同で提供しているネットサービス。使用状況、知識・判断を問う問題から構成され、80点以上が合格			

アンケートの結果から、学級の72%にあたる18名の児童が携帯電話・スマホを所有していることが分かった。「2014年子供を持つ母親の携帯電話・スマートフォンに関する意識調査」（MMD研究所 2014年8月）によれば、小学6年生の携帯電話端末所有率は48%であることから、本学級の所有率は全国的に見ても大変高いことが分かる。所有の目的は、検索や電話、メール、ゲームなどである。不適切な情報への対応を問う質問には、全員の児童が「対応できる」という肯定的な回答をしている。学校や家庭での指導や児童自身の経験から、多くの児童は不適切な情報を認識し、対応できると考えているようである。個人情報の保守についても全員の児童が「できる」と回答をし

ている。個人情報については、学校や家庭で日常的に指導をしており、児童の名前や住所を口外しないという意識が高まっているため、インターネット上でも同様に対応できると考えていると推測される。しかし、情報モラル診断サービスによる使用状況、知識・判断を問うテストでは、合格したのは5名のみであった。このことから、児童の情報モラルに関する知識や判断力は断片的なものであり、意識と実態には大きな差があるといえる。

(2) 題材設定の理由

近年、インターネットを介して起こる問題は、ネット依存やネット詐欺、ゲーム課金、不適切な投稿による炎上など、多岐にわたってきている。これらは、新聞やニュースでも取り上げられるようになり、インターネットの影の部分について、児童や保護者にも知られるようになってきた。そのため、児童は安易にインターネットの情報を信じず、自他の情報を他人に漏らさないことには、ある程度の知識や理解を有している。しかし、情報モラル診断サービスを活用して一人一人の知識や判断力を調査した結果、情報モラル、セキュリティ、法の分野の正答率が低く、情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度が十分に身に付いていないことが分かった。また、同調査で、インターネット上の人間関係で悩んだことがある児童やインターネットで知り合った人とメッセージやメールなどのやりとりしたことがある児童がいることが分かった。さらに、人と「つながる」ことに対しての危険性に対して無防備の状態にあり、知識と行動が結びついていないことが明らかとなった。そこで、児童の持つ知識の差や実態に対応するため、「インターネットの特性」「心理的・身体的特性」「機器やサービスの特徴」など、危険を回避するための知恵を学ぶ指導を行うとともに、具体的な事例を通して、知らない人とのコミュニケーションには危険が潜んでいることを知り、トラブルや犯罪に巻き込まれない方法を知り、知識、理解、実践力に結びつく指導が必要であると考えた。

(3) 指導の工夫

- ・導入の段階で、携帯型ゲーム機、スマートフォン、タブレット端末などは、「人と○○○○」道具であることを伝え、○の中に何が入るかを考えさせ、関心を高めるとともに、課題を捉えやすくする。(○=つながる)
- ・小学校5年生の女子を主人公にした映像教材を利用し、なりすましトラブルが自分自身にも起こりうることとして、回避する方法を考えさせるように工夫する。
- ・ネットでの出会いに対して気を付けることを、個人→グループ→全体の順に話し合い、児童自身に問題点や解決方法を考えさせ学びを深めるとともに、主体的に判断し解決しようとする力を養うようにする。
- ・まとめでは、問題への対応方法や予防方法をプレゼンテーションソフトを使って、情報社会の特性や仕組みについて理解を深める。

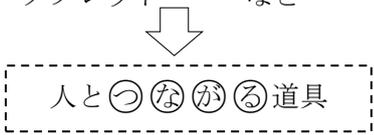
5 本時の学習

(1) 準備・資料

ノートPC 大型モニタ ワークシート 指導用教材 (パワーポイント、スマホ・リアル・ストーリー 【知らない人とつながって】 : 10分)

(2) 展開

◇は、個別の配慮を示す

時間	学習内容・活動	形態・資料	支援・指導上の手立てと評価
4分	<p>1 どんな機器を使ってインターネットを利用しているかを発表し、人とつながる道具であることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯型ゲーム ・スマートフォン ・タブレット など 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットに使う機器を発表させることにより、様々な手段で利用をしていることを実感させる。 ・人とつながる道具の「つながる」の部分に伏せ字とし、インターネットはWEBの閲覧だけでなく、コミュニケーションのツールとしても、活用されていることを意識させる。
2分	<p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">なりすましトラブルについて考えよう。</div>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットでつながる相手は目に見えないため、なりすましトラブルという問題が起こることを説明する。
23分	<p>3 映像教材を視聴する。</p> <p>(1) 問題に思ったことをワークシートに書き、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らない相手をすぐに信用していけない。 ・人をだます目的で、インターネットを利用する人もいる。 ・なりすましトラブルによって、犯罪に巻き込まれる可能性がある。 <p>(2) ネットで人とつながるときに気を付けることをワークシートに書き、グループで意見を交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に個人情報を教えない。 ・相手の理不尽な要求には応えない。 ・知らない相手とは、連絡をしないようにする。 ・直接会わないようにする。 	個人 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にあった出来事をもとに作成された映像であることを伝え、実感を持って、問題点や解決策を考えさせるようにする。 ◇ワークシートが書けない児童には、「～が悪いと思った」「～が怖いと感じた」など文型を示す。 ・机間指導を行い、3～4例程度の異なる意見を取り上げる。
8分	<p>4 グループで話し合ったことを発表し、意見や考えを共有する。</p>	個人 グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・班長から順に発表させ、発表した内容は発表ボードに記入させる。 ・自分の発表と友達の発表を比較して聞くようにし、考えを広げたり深めたりできるようにする。 ◇発表が苦手な児童に配慮するため、友達の意見を笑ったり批判したりせず、受容的な雰囲気の中で発表するように伝える。
5分	<p>5 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">ネット知り合った人に自分の情報を教えたり、直接会ったりしないようにします。</div>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・発表ボードを黒板に掲示し、いろいろな意見を視覚的にとらえやすくし、共有化を図るようにする。
3分	<p>6 学習の振り返りをする。</p>	個人	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">(評) なりすましの被害について知り、インターネット上での出会いに対して警戒心や注意を高め、避ける方法を考えることができたか。(観察・ワークシート)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに本時の振り返りを記入させる。

情報モラル

なりすましトラブルについて考えよう



インターネット

人と〇〇〇〇
道具



なりすまし
トラブル



問題だと思ったことは？

- ・知らない人をすぐに信用してはいけない
- ・人をだます目的で、インターネットを利用する人もいる。

ネットで人とつながるときに気をつけること

- ・相手に個人情報を教えない。
- ・相手の理不尽な要求には応えない。
- ・知らない相手とは、連絡をしないようにする。
- ・直接会わないようにする。

ネットで知り合った人に自分の情報を教えたり、直接会ったりしないようにします。

情報モラル授業①

文字だけのコミュニケーションを考えよう

() 年 () 組 名前()

◎ メールや掲示板は便利だけど、相手の顔が見えないからトラブルになることもあるね。トラブルにならないために、どんなことに気をつければいいのか考えてみよう！

1 ゲームの掲示板で裏ワザを質問したら、こんな答えが返ってきた。どんな気持ちがする？

☆教えて●●！

Akira

▲▲ゲームの裏ワザを教えてください！

Answer:ゲーム大王

教えてほしけりゃ●●円よこせ！

Answer:名無しのごんべえ

人に頼るんじゃねーよ！パーカ！

2 この後はどうなるか「未来予測」してみよう！

3 どんなメールを返信したらいいか考えてみよう！

<自分の考え>

<参考になった友達の考え>

4 今日の学習を振り返ってみよう！

情報モラル授業②

「ネット依存」になってしまうと…

() 年 () 組 名前()

◎ 見知らぬ人と対戦したりして遊べる“オンラインゲーム”にハマる人。携帯やスマホがないと不安になってしまう人。こんな人たちは『ネット依存』になっているといえます。『ネット依存』になると、どんな未来が待っているのか真剣に考えてみよう！

1 『ネット依存』になると、どんな悪影響があるかグループで話し合おう！

<自分の考え>

<参考になった友達の考え>

2 『ネット依存』になった人たちを「未来予測」してみよう！

<自分の考え>

<参考になった友達の考え>

3 『ネット依存』にならないために、インターネットとどう関わっていけばいいかな？

4 今日の学習を振り返ってみよう！

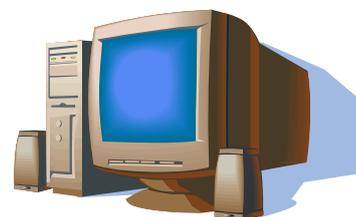
“情報モラル”ワークシート インターネットの使い方チェックリスト

() 年 () 組 名前()

◎ オンラインゲームのトラブル増加、携帯やスマホを手放せないなど、【ネット依存】になる人たちが急増している現代。「まだ小学生だし…」と他人事のように思っていないかな？今のうちに、自分が【ネット依存】になる危険度をチェックしておくことは大切です。便利なインターネットだからこそ、「安全に」「有効に」活用できるといいですね…。

☆ 「自分に当てはまるな…」と思ったところをチェックしてみよう。

- インターネットをしている時が何より楽しいと思う。
- 気が付くと何時間もインターネットをしている。
- 親がいないと安心してインターネットをしている。
- インターネットをやめるように注意されるとイラッとする。
- インターネットをしていると違う自分になれるような気がする。
- インターネットでたくさんの人と知り合ってみたいと思う。
- インターネットがないと生きていけないと思う。
- 携帯やスマホを取り上げられると落ち着かない。
- 食事中も携帯やスマホを触っている。
- トイレに携帯やスマホを持っていく。
- 自分からメールを終わらせることができない。
- 携帯やスマホを使っている時間がすごく楽しい。
- 携帯やスマホを使いながら寝てしまうときがある。
- 電話をするよりメールなどの文字の方が思いが伝わりやすい。



情報モラル通信

第2号
9月

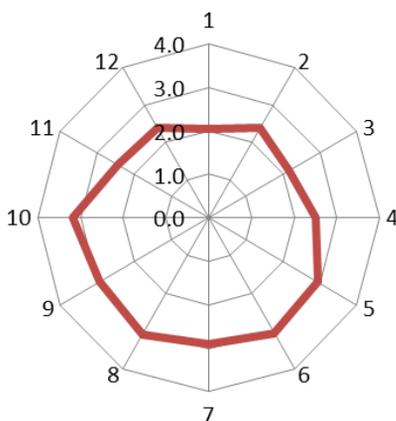
いよいよ新学期を迎えます。1学期は、情報モラル教育の実施、ありがとうございました。さて、6月に先生方にご協力いただいたアンケートの結果を報告いたします。

情報モラルチェックシート結果

「そう思わない」を1, 「そう思う」を4として, 平均を算出

1	児童のコンピュータや携帯電話の使用状況の把握	2.1
2	情報モラル教育のための情報収集	2.4
3	指導計画に基づいた情報モラル教育の実施	2.2
4	相手の気持ちを考えたり人の権利を大切にしたりする指導	2.5
5	インターネットをルールやマナーを守って使う指導	2.9
6	インターネット上には不適切, 不正確な情報があることの指導	3.1
7	健康面に気をつけてインターネットを利用することの指導	2.9
8	個人情報に気をつけてインターネットを利用することの指導	3.1
9	ウイルスや危険なアプリなどの指導	2.9
10	インターネットは多くの人とつながっていることの指導	3.2
11	コンピュータや携帯電話のルール作りなど, 保護者への啓発	2.4
12	懇談会で情報モラルを話題にし, 家庭と連携する体制づくり	2.4

情報モラル指導度



白抜きの部分がスコアの低い設問, グレーの部分は, スコアの高い設問です。

これによると, 「1 児童の実態把握」と「3 指導計画に基づいた指導計画の実施」ができていないと考えている先生方が多いことが分かります。6年生で携帯電話の所有率を調査したところ, 全国平均の50%に対して, 本校では65%と, かなり高いことが分かりました。これは, それだけリスクが大きいことを示しています。挙手でもいのでぜひ, 自分の学級, 学年の実態を一度把握してみてください。

6, 8, 10については, 肯定的な回答が多い設問です。児童のアンケート結果からも, 不適切な情報への対応や個人情報の漏洩への意識が高まっていることが分かりました。

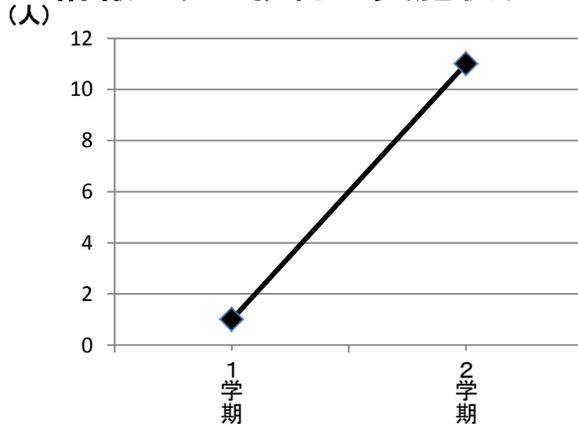
学期に1, 2回の情報モラル教育ですので, ぜひ2学期も年間指導計画にそって, 指導いただきますようよろしくお願いいたします。

情報モラル通信

第5号
11月

2学期も折り返しを迎えました。ご協力いただいた情報モラル教育に関するアンケートの結果をお知らせします。

情報モラル教育の実施状況



左は、先日ご協力いただいた情報モラル教育の実施状況をグラフに表したものです。

1学期は、実施人数が1名でしたが、2学期は、実施予定も含めると、11名の先生方が、情報モラル教育を実施してくださっています。ご協力ありがとうございます。

情報モラル通信4号でもお知らせしたように、下学年は学期に1回、上学年は2回程度実施することになっています。苦手な先生は、出前授業や交換授業等で対応しますので、ご相談ください。

出前授業の様子



情報モラルの授業が行われました。朝の会の時間に出前授業の形で、2本の動画とワークシートを活用して、「危険に出会ったときは大人に意見を求め、適切に対応すること」を指導しました。

2人の先生から、「20分程度の出前授業はとても良かったのでこれを続けたら良いと思う。」「ワークシートが使いやすく、どのように進めていけばよいか分かりやすく良かった。」とのコメントをいただきました。2人の先生方ありがとうございました。

キ リ ト リ セ ン 名前()

お忙しいところ、いつもご協力ありがとうございます。最後のアンケートです。

1 情報モラル通信は、情報モラル教育に関する情報を得たり、授業を実施したりする上で役に立っている。
 そう思う だいたい思う あまり思わない 思わない

※ 所定の封筒まで提出してください。お手数をおかけしますが、よろしくお願いします。

情報モラルチェックシート

○ 自分自身の情報モラル指導度を確認して頂ければと思います。参考になる資料等は後日紹介いたします。

1-2-3-4
 そう思わない → そう思う

	チェック内容	○印を付けてください
1	自分のクラス（学年）の児童のコンピュータや携帯電話の使い方について実態をよく知っている。	1-2-3-4
2	日頃から児童が利用している情報機器やサービスに関しての情報を積極的に集めて、情報モラルの指導に生かしている。	1-2-3-4
3	計画的に情報モラルに関する指導をしている。	1-2-3-4
4	情報のやりとりやネット社会でのできごとを取りあげて、相手の気持ち考えたり、人の権利を大切にしたりする指導をしている。	1-2-3-4
5	児童がインターネットを利用する際に、ルールやマナーを守ることの大切さについて指導をしている。	1-2-3-4
6	調べ学習などでインターネットを利用する際に、インターネット上には不適切な情報や不正確な情報があることを指導している。	1-2-3-4
7	インターネットを利用する際に、健康面に気をつけて使うように指導している。	1-2-3-4
8	インターネットを利用する際に、パスワードや住所、名前などの個人情報を大切に扱うように指導している。	1-2-3-4
9	ウィルスや危険なアプリなどがあり、注意が必要なことを指導している。	1-2-3-4
10	インターネットはみんなのものであり、たくさんの人とつながっていることを指導している。	1-2-3-4
11	保護者に対し、携帯電話やコンピュータの使い方など、家庭でルールを作るよう勧めている。	1-2-3-4
12	保護者懇談会では情報モラルについて取り上げ、話題にすると共に啓発に努めている。	1-2-3-4

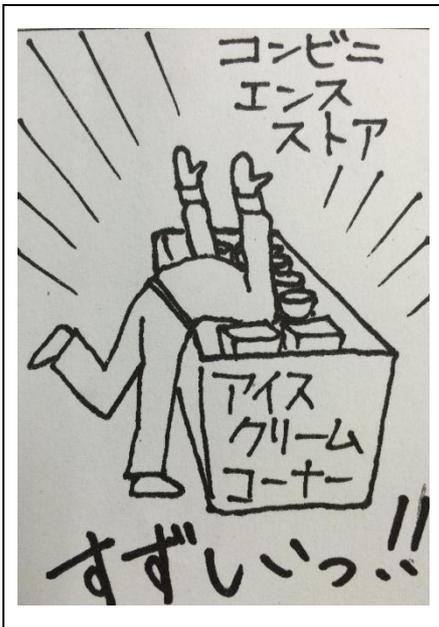
その他

参考資料：情報モラル指導実践キックオフガイド

情報モラル学習シート

()年()組 氏名()

1月1日、太郎さんは、ネット上に次のような写真を投稿しました。



1. 投稿した写真は、大きな問題になってしまいました。

この写真のどこが問題なのでしょう？

2. 問題の投稿をした太郎さんは、この後どうしたらいいでしょう？

・一言感想

情報モラル学習シート

()年()組 氏名()

太郎さんは、1月1日の問題の投稿の後、問題に気づき、自分が投稿した自分の写真などを全て削除しました。

ところが、しばらくたって、自分の個人情報（出身高校・通っている大学・部活・顔）がネット上に出回っていることに気づきました。しかも、自分で投稿したものではないので消すことができません。

1. 個人情報（出身高校・通っている大学・部活・顔）はどの位の期間で広がっていったのでしょうか？日付を予想して書いてみましょう。

1月	1日	0:00	太郎さんがネット上へ問題の投稿をする。
()月	()日		太郎さんの出身学校が判明。
()月	()日		太郎さんの通っている学校と部活が判明。
()月	()日		太郎さんの名前が判明。
()月	()日		太郎さんの顔写真が判明。 (学校・名前・顔が判明)

2. 個人情報が、ネット上に広がってしまうと、消すことができなくなります。太郎さんはこの後、どうすればよいでしょう。

※ 一言感想

情報モラル学習シート

()年()組 氏名()

オンラインゲーム会社の「A」は、「課金」という仕組みを使って利益（もうけ）を上げています。

1. オンラインゲームとは、ネットにつながって遊ぶゲームですが、その中の仕組みである「課金」とは、次のうちどのようなことでしょうか。

- ア ユーザーが、オンラインゲーム上の貴重なアイテムなどを売ってお金を手に入れること。
- イ ユーザーが、オンラインゲーム上の貴重なアイテムなどを手に入れるために、お金を支払うこと。
- ウ オンラインゲーム会社が、ユーザーにお金を配ること。
- エ オンラインゲーム会社が、税金を支払うこと。

2. オンラインゲーム会社の「A」は、「課金」に制限をかけています。（例：「18歳未満は月5000円まで」など）。「課金」は会社がもうかる仕組みなのに、なぜ制限をかけたのだろうか？

情報モラル学習シート

()年()組 氏名()

オンラインゲーム会社の「A」は、「課金」という仕組みを使って利益（もうけ）を上げています。

1. オンラインゲームとは、ネットにつながって遊ぶゲームですが、その中の仕組みである「課金」とは、次のうちどのようなことでしょうか。

- ア ユーザーが、オンラインゲーム上の貴重なアイテムなどを売ってお金を手に入れること。
- ④ ユーザーが、オンラインゲーム上の貴重なアイテムなどを手に入れるために、お金を支払うこと。
- ウ オンラインゲーム会社が、ユーザーにお金を配ること。
- エ オンラインゲーム会社が、税金を支払うこと。

2. オンラインゲーム会社の「A」は、「課金」に制限をかけています。（例：「18歳未満は月5000円まで」など）。「課金」は会社がもうかる仕組みなのに、なぜ制限をかけたのだろうか？

お金をかけすぎる、請求が来て初めて気付く、などの問題が起こったから。（例：中学生が20万円など）

情報モラル指導カリキュラム

領域	分野	コード	指導事項	教科等	主な指導内容	学年	単元(題材)名	教科書	学習場面(内容)		
心を磨く領域	情報社会の倫理	a4-1	情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する	社会	公民:(4)-イ	3	世界とつながる日本	教育出版	「グローバル化」の学習の中で、情報の発信者としての自覚と責任について扱う。		
				外国語	(1)ウ(ウ)	2	Program3 Charity Walk	開隆堂	WEB上のチャリティーウォークについての内容理解のときに、情報社会における自覚と責任について扱う。		
				道徳	4-(2)	1	スマホ18の約束	／	授業の中で、情報社会における責任と義務について扱う。		
				理科	2-(5)-イ-(ア)	3	近代の生物学の飛躍的な進歩	大日本図書	「遺伝子の研究」の学習の中で、生命の保護や個人情報について扱う。		
				外国語	(1)ウ(ウ)	2	Program7 If you wish to see a change	開隆堂	セヴァンのスピーチの内容理解のときに、個人の権利を尊重することの大切さについて扱う。		
				道徳	4-(2)	2	アン・ハンマンの心	／	授業の中で、肖像権や人格権について触れる。		
				特活	(2)-ウ	全学年	携帯・スマホの安全な使用方法	／	講演会の中で、スマートフォン等の適切な使い方、SNSのメリットとリスク等について扱う。		
				理科	2-(3)-イ-(ウ)	2	直流と交流	大日本図書	「直流と交流」の学習の中で、発光ダイオード等の開発について触れる。		
				外国語	(1)ウ(ウ)	1	Program6 由紀のイギリス旅行	開隆堂	内容読解でシャロックホームズやアニメのコナンに触れるときに著作権などの知的財産権について触れる。		
				社会	公民:(1)-イ	3	みんなで育てる人権意識	教育出版	「プライバシーの権利」個人情報保護法の学習と関連付け、知的財産権とは何かについて触れる。		
法の理解と遵守		c4-1	違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない	社会	公民:(3)-イ	3	マスメディアと政治	教育出版	「マスメディア」の学習の中で、情報を利用する際の注意点と違法行為について扱う。		
				外国語	(1)ウ(ウ)	3	Program10 After twenty years	開隆堂	内容読解でジミーのとつた行動を取り上げ、法の理解と遵守について扱う。		
				道徳	4-(2)	2	住みよい社会に防犯カメラ	／	授業の中で、違法行為について触れる。		
				社会	公民:(1)-イ	3	みんなで育てる人権意識	教育出版	「プライバシーの権利」個人情報保護法の学習と関連付け、その保護と扱いについて扱う。		
				理科	2-(5)-イ-(ア)	3	医療と遺伝子技術	大日本図書	「DNA鑑定」の学習と関連付け、その保護と扱いについて扱う。		
				外国語	(1)ウ(ウ)	1	Mike's visit to Washington,D.C	開隆堂	内容読解で情報の保護と取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容について扱う。		
				道徳	2-(3)	1	チェーンメールあなただけならどうする	／	授業の中で、チェーンメールを中心に法律における規制等について触れる。		
				社会	公民:(2)-ア	3	生産と消費をつなぐもの	教育出版	「オンライン・ショッピング」の学習の中で、トラブルと契約について扱う。		
				社会	歴史:(6)-イ	3	未来をひらくために	教育出版	「世界のグローバル化と情報化」の学習の中で、ネットワーク社会の構造について触れる。		
				道徳	4-(2)	3	人にめいわくをかけたらいけないこと	／	授業の中で、他人に対する迷惑とネットワークの公共性について扱う。		
公共的なネットワーク社会の構築		d4-1	ネットワークの公共性を意識して行動する	外国語	(1)ウ(ウ)	2	Program3 Charity Walk	開隆堂	WEBでの情報収集を取り上げるときに、ネットワークの公共性について扱う。		
				社会	公民:(1)-ア	3	情報がつないでいくもの	教育出版	「情報社会」の学習の中で、情報社会の影の部分に触れ、情報社会を生き抜くことについて扱う。		
				外国語	(1)ウ(オ)	2	Program8 A shelter for pet animals	開隆堂	内容読解でペットの里親探しについて取り上げ、情報社会の特性について扱う。		
				外国語	(1)エ(ウ)	3	Writing1 ウェブストアへのメール	開隆堂	WEBストアへのリクエストメールを送る内容を考える中で、トラブルに遭遇した時の主体的な解決方法について扱う。		
				技術	D-(1)-ウ	2	情報セキュリティ	開隆堂	コンピュータの使用の際のウィルス等に関する学習からセキュリティの必要性について触れる。		
				国語	読む(1)-ア・イ・ウ・エ・オ (2)-ウ 伝国(1)-イ・オ	2	メディアと上手に付き合うために	光村図書	「メディアとの付き合い方」の学習の中で、情報の取り扱いについて扱う。		
				社会	地理:(1)-ウ(エ) :(2)-イ(エ)	1 2	世界の最先端を行く工業	教育出版	「先端技術産業」の学習の中で、情報の真偽を判断して活用する必要性について触れる。		
				技術	D-(1)-エ	3	ネットワークの安全性	開隆堂	インターネットでできることから発展させて、安全性について扱う。		
				外国語	(1)ア(イ)	1	Listening2 ラジオ放送	開隆堂	ラジオ放送の内容を聞き、自他の情報の安全な取り扱いについて扱う。		
				外国語	(1)エ(オ)	3	Writing2 ホームページで学校紹介	開隆堂	学校紹介のホームページの内容を考えさせる中で、自他の情報の安全な取り扱いについて扱う。		
安全への配慮		d4-2	トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を考える	家庭	(1)イ(ウ)	3	商品の選択と購入 よりよい消費生活のために	開隆堂	販売方法、支払い方法など、インターネットに關した消費者トラブルとその防止について扱う。		
				外国語	(1)イ(ウ)	2	Spaiking3 買い物②(ハンバーガー注文する)	開隆堂	ファーストフード店の注文を通して、情報メディアとの関わり方について扱う。		
				道徳	2-(3)	1	何のために叱られるのか?	／	授業の中で、メディアの活用と健康について触れる。		
				特活	(2)-キ	1	インターネットとどう向き合うか	／	全校講演会の中で、インターネットを使用する際の適切な情報判断について扱う。		
				外国語	(1)ウ(オ)	2	Program9 A priest in a Mask	開隆堂	内容読解を通して、自他の安全面に配慮した情報メディアとの関わり方について扱う。		
				道徳	4-(2)	3	ネット社会で身を守る	／	授業の中で、ネット社会での安全管理及びメディアとの関わり方について触れる。		
				外国語	(1)エ(オ)	2	Writing2 ホームページへのメール	開隆堂	ホームページへのメールを書く学習の中で、情報セキュリティについて扱う。		
				外国語	(1)エ(オ)	3	Writing2 ホームページで学校紹介	開隆堂	ホームページでの学校紹介を通して、基礎的なセキュリティ対策について扱う。		
		知恵を磨く領域	情報セキュリティ	e4-1	情報の信頼性を吟味できる	技術	D-(1)-エ	3	ネットワークの安全性	開隆堂	インターネットでできることから発展させて、安全性について扱う。
						外国語	(1)ア(イ)	1	Listening2 ラジオ放送	開隆堂	ラジオ放送の内容を聞き、自他の情報の安全な取り扱いについて扱う。
				外国語	(1)エ(オ)	3	Writing2 ホームページで学校紹介	開隆堂	学校紹介のホームページの内容を考えさせる中で、自他の情報の安全な取り扱いについて扱う。		
				家庭	(1)イ(ウ)	3	商品の選択と購入 よりよい消費生活のために	開隆堂	販売方法、支払い方法など、インターネットに關した消費者トラブルとその防止について扱う。		
				外国語	(1)イ(ウ)	2	Spaiking3 買い物②(ハンバーガー注文する)	開隆堂	ファーストフード店の注文を通して、情報メディアとの関わり方について扱う。		
				道徳	2-(3)	1	何のために叱られるのか?	／	授業の中で、メディアの活用と健康について触れる。		
				特活	(2)-キ	1	インターネットとどう向き合うか	／	全校講演会の中で、インターネットを使用する際の適切な情報判断について扱う。		
				外国語	(1)ウ(オ)	2	Program9 A priest in a Mask	開隆堂	内容読解を通して、自他の安全面に配慮した情報メディアとの関わり方について扱う。		
				道徳	4-(2)	3	ネット社会で身を守る	／	授業の中で、ネット社会での安全管理及びメディアとの関わり方について触れる。		
				外国語	(1)エ(オ)	2	Writing2 ホームページへのメール	開隆堂	ホームページへのメールを書く学習の中で、情報セキュリティについて扱う。		

- 1 題材名 考えよう・感じよう情報モラル！—考えよう・感じよう情報発信の落とし穴—
- 2 「モデルカリキュラム」における位置づけ

大目標：情報に関する自分及び他者の権利を理解し、尊重する。

中目標：個人の権利（人格権、肖像権など）を尊重する。

小目標：肖像権がある写真などの利用について、基本的なルールを理解する。

- 3 題材の目標

情報発信の考え方や注意事項、マナーやルールについて理解させ、自分なりの態度について考えることができる。

- 4 指導にあたって

- (1) 生徒の実態（男子 23 人 女子 38 人 計 61 人）

平成 26 年 9 月 26 日

調 査 項 目	調査結果
1 自分の携帯電話(スマートフォン)を所有している。	29 人
2 家庭でインターネットが利用できる。	59 人
3 SNSを利用している。	47 人
4 インターネット上でトラブルを経験したことがある。	25 人
5 インターネット上に情報を発信したことがある。	12 人

生徒は、日常的にインターネットを利用できる環境にあり、その多くが実際に活用している。また、インターネットを利用してコミュニケーションを図っている生徒も多い。インターネットを介したコミュニケーションの多くが、文字を介しての意思交流である。そのため自分の意図することを伝えられなかったり、相手の考えや気持ちを読み誤ったりしたことによるトラブルが多くなっている。さらに、誰もが情報を発信できる立場にあり、その責任と義務を認識しないままでの活用によるトラブルが、今後増えてくると予想される。これらのトラブルや問題行動は、生徒の情報モラルについての知識と情報社会に参画する態度が身に付いていないことが原因であると考えられる。

- (2) 題材設定の理由

多くの生徒が、家庭でインターネットを利用できる環境にあり、そのサービスを利用している。また、利用中にトラブルを経験している生徒もいる。これらのことから、生徒が取り返しのつかないトラブルに巻き込まれる前に、相手の立場や気持ちを尊重するなどのルールやマナーについて自分のこととして捉えさせ、考えさせていく必要があると感じた。そのためには、生徒が日常的に活用しているインターネットの利用に関する実態を捉えさせるとともに、情報のもつ危険性を認識させ、生徒自身の問題として課題を捉え考察させる必要がある。さらに、意見交流を通して、様々な考え方があることに気付かせ、正しく情報を活用するための自分の考え方や判断、これから取るべき行動について探究させていくことが重要と考えた。

- (3) 指導の工夫

- ・学習内容を生徒が自分のこととして捉え、実感をともなって現実的に考えられるようにするために、ストーリー性をもたせた自作のデジタル教材を活用する。
- ・実態を示す際には、情報のもつ利便性と危険性を認識させながら、常に自分と比較させることによって、課題（問題点）やとるべき行動について、より現実的に考えさせるようにする。
- ・個々で考察した内容をさらに深化させるために、意見交流の場面を設定し、自他の意見を比較検討させ、多角的な視野で自らの考察を明確にさせるようにする。

5 本時の学習

(1) 準備・資料

- ①自作教材（ブログ公開） ②学習シート ③教師用PC ④電子黒板 ⑤定着チェックシート

(2) 展開

◇は、個別の配慮を示す

時間	学習内容・活動	形態・資料	支援・指導上の手立てと評価
3分	○ 前時の学習を振り返り、学習課題についての意識を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・見えない相手を思いやる。 ・大切なことは直接会って話す。 ・分からないことは直接聞く。 	一 斉 ①② ③④	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りクイズに取り組みせ、本時の学習課題を印象的に把握できるようにする。 ・短時間で展開できるようにする。 ・解答は、生徒と教師の間答で確認する。 ・学習課題について意識させるようにする。
8分	1 本時の学習課題を把握する。 (1) 場面設定を捉える。 (2) E子のブログについて考察する。 (F子の立場としても考えてみる。)	一 斉 個人 ①②④	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活での似たような経験を参考にするように助言する。 ・生徒の自由な発言を展開を活かすようにする。 ・生徒の発表や発言を活かし、自分自身の課題として捉えられるように声掛けをする。
12分	考えよう・感じよう情報発信の落とし穴 ※学習課題を日常化し自分の課題とする。 2 課題解決を図る。 (1) E子のブログの問題点について考える。 ①課題（問題点）を探る。 <ul style="list-style-type: none"> ・写真には位置情報機能が付加されている。 ・実力テストの点数を発信した。 ・事実とは違う情報を発信した。 など ②事例の問題点を知り、自分の考えと比較する。 ③「もし自分がE子だったら」を前提に、この後のE子の行動を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・大人に相談する。 ・F子に謝る。 ・ブログをやめる。 など 	個人 グループ ①②④	<ul style="list-style-type: none"> ◇ワークシートへの記入の仕方を理解しているか机間指導で確認する。 ・発信時刻も依存と関連して取り上げる。 ・正解が一つではないことを伝え、考えたことや気付いたことなどを自由に書いていいことを伝える。 ◇問題点が見つけられない生徒には、会話をして場面を想像させながら気付かせるようにする。 ・世界中に発信された情報は、取り消すことができるかについて意識させる。 ◇話し合いが苦手な生徒には、学習シートの記述に○印を付けるようにする。
15分	(2) グループで意見交換し、情報を発信する時に注意することなどについて考えをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の保護（漏洩）を意識する。 ・正しい情報のみを発信する。 ・世界に発信していることを意識する。 ・発信した情報は取り消しができない。 	グループ ①②④	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えと比較させながら、自分の考えを深化させるように助言する。 ◇日常生活での情報発信時における、自分の考えや判断基準また、取るべき態度などについて、自分なりの考えをもてるように助言する。
10分	3 本時のまとめをする。 (1) 発表を自分の考えと比較しながら聞く。 (2) 学習シートに自分の言葉でまとめる。	一 斉 個人 ①～⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる考えを3例程度発表させる。 ・生徒が共有化した内容及び生徒たちから出てきた言葉でまとめるようにする。
	○相手の立場になって発信する。 ○個人情報の扱いには十分注意する。 ○瞬時に、国境を越えて、世界中の人が見るものと自覚する。 ○発信してよい内容か確かめて発信する。		(評) 事例をもとにした学び合いを通して、情報発信の際の判断基準やこれから取るべき態度などについて、自分なりの考えもつことができる。【観察・学習シート】
2分	(3) 定着チェックシートで確認する。 4 次時の学習内容を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・その他の情報発信時の注意事項 ・正しい情報の活用の仕方 ・情報社会の危険について など 考えよう・感じよう情報活用の落とし穴	一 斉 ①	<ul style="list-style-type: none"> ◇全員が自分の考えがもてたか、学習シートの記入状況を見て確認する。 ・次時の学習内容について検討させることによって、次の学習への関心を継続させる。 ・次時の学習課題は、興味関心を持続させるために明示をしない。

[第3時 板書計画]

考えよう・感じよう情報モラル！

考えよう・感じよう**情報発信**の落とし穴！
～情報を発信する立場になって考えよう～

① E子のブログどう思う？

- 気に入った点, 気になる点など
 - ・ 写真がある (わかりやすい)
 - ・ 絵文字がある (気持ちを通じる)
 - ・ 素直な気持ちを書いてある
 - ・ 発信時間について
 - ・ 写真の無断使用について
 - ・ 成績の投稿について
 - ・ 位置情報の流出について



個人情報

※もしあなたがF子だったら？

- ・ 怒る(気分が悪い)・嬉しい
- ・ 絶交する！
- ・ 理由を聞く
- ・ 口を利かない
- ・ 一度なら許す

③ あなたが情報を発信するときは？

○ [まとめ]

生徒の言葉でまとめ。
* 3人程度発表させる。

② E子のブログの問題点は？

○ F子怒っているわけは？

- ・ 勝手に自分のことを書かれたから
- ・ 写真を載せられたから
- ・ 成績をばらされたから
- ・ E子のことが嫌いだから
- ・ 気に入らない写真を載せられたから
- ・ その他



○ E子はこの後どうしたらいい？

- ・ 謝る
- ・ F子のことを嫌いになる
- ・ ほっておく
- ・ 大人に相談する

考えよう・感じよう情報モラル！ 一考えよう・感じよう〇〇〇〇の落とし穴ー

[第3時 ワークシート]

番 氏名 _____

① E子のブログどう思う？

※選んだ番号 ()

選んだ理由

② もしも自分がF子だったら・・・。

Q E子のブログを見てどう思う？
<自分の考え>

<友達の考え>



③ F子が怒っている理由は？ E子のブログのどこに問題があるだろう？ (箇条書きで)

[まとめ] あなたが情報社会を生き抜くために、あなたがこれから情報を発信する時はどうする？

〈研究主題〉

身近なテーマをもとにした資料から、友達の多様な考えに触れる活動を通して、友情を育んでいく実践的な態度の育成を図る授業展開の工夫

1 主題名 友情を育んでいくために必要なことは何だろうか？（2－(3)友情）

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目2－(3)は「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。」ことをねらいとしている。

真の友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念がその根底にある。それは、相手の人間的な成長を願い、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという関係である。しかし、青年前期においては、感情の起伏が激しく、ともするとささいなことから感情の行き違いが生じ、せつかくの友人関係が台無しになることもある。また、近年インターネットや携帯電話、スマートフォンの普及により、中学生のSNS利用が増えてきている。SNSのような顔の見えないコミュニケーションによって、感情の行き違いや友人トラブルが増加しているなかで、表面的な言動だけでなく、相手の成長を心から願って互いに励まし合い、忠告し合える信頼関係について考えられるようにしたい。

(2) 生徒の実態について（H27年9月1日実施、調査人数28人）

あなたはSNS（LINE、Twitter、facebook等）を利用している。または、利用したことがある。	はい 22人	いいえ 7人
あなたはメッセージ機能がついているオンラインゲームを利用している。または、利用したことがある。	はい 21人	いいえ 8人
今までに、SNSやオンラインゲームで喧嘩やトラブルになった、もしくはなりそうになったことがある。	はい 7人	いいえ 22人

現在、SNSを利用している生徒の割合は、76%と非常に高い。また、メッセージ交換ができる機能がついているオンラインゲームを利用している生徒も含めると、ほぼ全員が顔を合わせないインターネット上のコミュニケーションを経験している。なかでも、「LINE」については、当学級も含めて、クラスごとにグループができており、下校後も時間など相手の都合も考えずに自己中心的にコミュニケーションをとっている実態がある。また、「昨日、既読スルーしたでしょ？」といった生徒同士の会話を耳にすることがある。ささいな心のすれ違いから、オンライン上のいじめやトラブルに発展する危険性がある。一番身近な「LINE」をテーマにしたVTR資料をもとにして、友情を育むために必要な実践的な態度を育てたい。

(3) 資料について 資料名 学校で考えよう「スマホのコミュニケーション」

本資料は、NPO法人企業教育研究会が製作している情報モラル教育向けの動画で、SNSでの友人トラブルを題材にしたものである。仲の良い友人5人で、SNSを利用してグループをつくり、家にいる時間もコミュニケーションをとることができ、友情がどんどん深まっていると感じていた。しかし、部活動でのささいな思い違いが原因でトラブルに発展する。その後、トラブルの解決に向けて仲直り計画が進行するが、顔を合わせることなく会話ができるSNSで連絡を取り合った結果、システム上メッセージを読んだことを意味する「既読」がついているのに返信がないことで、トラブルがさらに大きくなってしまふ。友人関係に入った小さな亀裂が、SNSでのコミュニケーションで一層深くなってしまふストーリーである。便利な面もたくさんあり、中学生の利用が急速に増えているSNSに潜む落とし穴に気づかせたい。そして、友情を育むためには、直接顔を合わせるコミュニケーションを大切にしながら、友達に対して忠告をしたり、励ましたりすることが必要だということを、資料を通して考えさせたい。

3 主な言語活動

(1) 思考・記述；トラブルの原因と考えられる行動をもとに、友情を育むために大切なことを考え、ワークシートに記入する。

(2) 受信；隣の人の考えや他の人の考えを聞く。

(3) 発信；グループになって、自分の考えをメンバーに伝える。

4 本時の指導

(1) ねらい

相手のことを思いやり忠告したり、励まし合ったりしながら友情を育もうとする道徳的実践力を高める。

(2) 準備・資料

VTR資料、掲示物、ワークシート、ホワイトボード、プロジェクター、パソコン

(3) 展開

主な活動と発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点 (※評価)
<p>1 SNSの特徴について知る。</p> <p>2 明日香、莉子、翔太の3人の登場人物の行動に注目してVTR資料を視聴する。 (1) 3人の行動で気になったことを隣の人と意見交換する。 (2) 全体で発表する。</p> <p>3 友情について考える。 ○友情を壊さないために、どんなことが大切だろう。 (1) グループで話し合う。 (2) グループの意見を発表し合う。</p> <p>4 他の人の考えを聞いた後で、友情を育むために必要なことについての考えを深める。 ○今日の授業で、「友情」について感じたことワークシートに記入しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで複数の人に同時にメッセージのやり取りができる。 ・無料。 ・明日香は莉子を責めずに励ましてあげればよかった。 ・莉子は、明日香がカラオケに来なかったときに、既読スルーだと思いつまらずに、明日香から本当の気持ちを直接聞けばよかった。 ・翔太は、明日香が莉子を責めているときに、明日香に忠告して莉子に慰めも言葉をかけてあげればよかった。 ・自分がこの3人の立場だとしても、同じ事をしていたと思う。 ・落ち込んでいる友達には、励ます言葉をかけてあげる。 ・友達に間違っている言動があったときには、しっかりと忠告してあげる。 ・大切なことは、SNSではなく直接会って話をする。 ・見て見ぬふりをせずに、落ち込んでいる友達には励ましの声をかけてあげるべきだ。 ・相手に嫌われてしまうことを怖がらずに、しっかりと忠告してあげるべきだ。 ・大切なことは、SNSではなく直接会って話すべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のVTRはSNSの中でも、実際にほとんどの生徒が知っていたり、利用していたりする「LINE」が取り上げられていることを説明し、これからの授業展開が身近なことという意識をもたせる。 ・VTRに登場する3人の立場で観ることができるように、事前にトラブルが起こることを生徒に伝え、メモをとりながらVTRを観ることができるようにする。 ・掲示物を活用し、話の概要を押さええながら、意見を発表させたり、聞いたりさせたりさせる。 ・3人の行動の問題点をまとめ、整理する。 ・友情を壊さずに育んでいくために大切なことについて、グループででた意見をホワイトボードにまとめ、代表1名が発表する。 ・グループの発表ででた意見のなかから、一番大切だと感じたことに、自分のマグネットネームを貼る。 ※生徒の考えを共有し、友情を育もうとする考えをワークシートに記入できている。 ・様々な考えを聞き、自分の考えと比較し、友情を育んでいくために必要なことについて、考えを深めることで本時の終末とする。

研究主題	指導過程の工夫を通して主体的に課題解決を図ることのできる指導の在り方
------	------------------------------------

1 単元名 健康な生活と疾病の予防（休養・睡眠と健康）

2 目標

- (1) 健康な生活と疾病の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して、知識や情報を収集した学習活動などに、科学的に考え判断し、まとめることができる。
(思考・判断)
- (3) 生活行動・生活習慣と健康について理解したことをまとめたり、書き出したり自分の言葉で発表することができる。
(知識・理解)

3 指導に当たって

(1) 単元について

① 学習指導要領との関連

本単元は、(4)健康な生活と疾病の予防のイ 生活行動・生活習慣と健康から成り立っている。食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活の継続をすること、生活習慣の乱れが生活習慣病などにも繋がることを理解し、それらを自分の生活に役立てていける能力と態度を育成することをねらいとしている。

② 本単元を支える既習事項や他教科との関連

小3, 4 保健…… 健康診断や学校給食
小5, 6 保健…… 栄養の偏りのない食事、口腔の衛生

(2) 生徒の実態

アンケート (男子16人, 女子12人 計28人)	
1 あなたは、どんな通信機器をえていますか?	スマホ 16人 iPod 5人 タブレット 3人 パソコン 3人 なし 1人
2 あなたは携帯電話やスマートフォン、パソコンを利用することがありますか?	はい 27人 いいえ 1人
3 1で「はい」と答えた人は、どのくらいの頻度でどのくらいの時間行っていますか?	ほぼ毎日 11人 週3~4日 8人 週1~2日 6人 月1回 1人 1~2時間 11人 30~1時間 8人 30分未満 6人 2時間以上 2人

携帯電話やスマートフォン、パソコン等に関するアンケートで、通信機器をえている生徒は、ほぼ全員であり、それらを利用し VDT 作業を行っていることがわかる。中には、2時間以上続けて利用するなどの生徒もいる。

(3) 指導観

本単元では、健康を維持するためには、休養及び睡眠によって心身の疲労を回復することが必要であることを指導する。今、とても身近にある携帯電話やスマートフォン、パソコンなどの機器の使用法について主体的な学びを大切にして授業を展開する。そのためにまず、自身の日々の生活の中でどれくらいの時間機器を使用し、使用に関してどんな問題点があるのかを書き出し、課題をもたせる。次に、ペア学習を通してお互いに気付いていない問題点を指摘し合ったり、アドバイスを合ったりする。更に、ビデオを見せることで携帯やスマートフォンなどの使用法を誤ってしまうと、心身に悪影響をもたらすことを理解させ、自身の今後の生活に生かしていけるよう指導していきたい。このように生徒が自分の生活の振り返りをスタートとして、学び合いや資料から自分の生活に生かすという指導過程の工夫を図りながら、主体的に課題解決を図る力をつけていきたい。

4 主な言語活動

- (1) 受信・分析 ; 自分の生活習慣(携帯やスマートフォン利用)を振り返る。
- (2) まとめ ; 携帯電話やスマートフォンの使い方について考える。
- (3) 相互発信 ; 携帯電話やスマートフォンの使い方について考えたことを表現し、発表する。

5 指導と評価計画 (6時間扱い)

	学習内容	評価計画		
		関	思	知
1	【健康の成り立ち】病気の発生要因について知る。	○		
2	【運動と健康】適度な運動は、体の発育を促し、生活習慣病の予防に役立つことを知る。			○
3	【食生活と健康】生きていくために必要な栄養素をバランスのとれた食事からとることを知る。			○
4 5 (本時)	【休養と健康】疲労を感じたときの自覚症状を考え、身体的疲労、肉体的疲労それぞれに適した疲労回復の方法を考える。 VDT 作業が心身に及ぼす影響を知り、自分の生活習慣について考える。		○ ○	
6	【生活習慣病とその予防】生活習慣によっておこる様々な病気について考え、予防のための方法を考える。		○	

6 本時の指導

(1) 本時の目標

○ VDT作業が心身に及ぼす影響を知り、自分の生活習慣を見直すことができる。(思考・判断)

(2) 準備・資料

・ 掲示資料 ・ パソコン ・ TV ・ プリント

(3) 展開 (1 / 1)

	学習内容・活動	指導上の留意点 ※評価の観点, 方法
はじめ 7分	<p>1 前時の振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間の学習や運動, 作業などは疲労をもたらす。 ・疲労回復が十分にできない状態が続くと過労となる。 ・心身の疲労は, 適切な休養や睡眠によって蓄積しないようにする。 </div> <p>2 学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>VDT作業が心身に及ぼす影響を知り, 自分の生活習慣を見直そう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のポイントを2人程度に発表させ, 全体で確認をする。 ・スライドを使って疲労の起こり方と休養の取り方を提示し, 前時の学習を思い出させる。 ・スライドでアンケート結果を掲示して, クラスの現状を知らせ, 学習の見通しがもちやすいようにする。 ・「いいえ」と答えた生徒については, 自分が携帯電話を所持したときのことを見据えて考えるよう助言する。 ・VDT作業の中でも今日は, 携帯電話やスマートフォンについて考えることを伝える。
なか 35分	<p>3 1週間の家での生活スケジュール表とワークシートを完成させる。</p> <p>4 ペアで, お互いのスケジュール表とワークシートから, 利用時間や使い方などについての問題点を挙げる。</p> <p>5 携帯やスマートフォンを使い過ぎると心身にどんな影響が出るかワークシートに記入する。</p> <p>6 携帯電話やスマートフォンが心身に与える影響を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートは, 特に使用が著しい日を拾い上げて書き出すよう助言する。 ・ペア学習において, 友達に見てもらおうことで自分では気付いていなかったり, 考えが不十分だったりする点を気付かせる。 ・朝の目覚め方や日中の活動時の様子など, 思い起こさせる。 ・ワークシートに文章化し, 数名に発表させ全体で友達の考えを共有する。 ・ビデオを見せることで, 自分の普段の生活と比べられるようにする。 ・ビデオを見せることで, 心身にどんな影響があるのか気付きやすくなるようにする。 ・スライドで 携帯電話やスマートフォンなどの VDT 作業が心身にもたらす影響を補足する。
まとめ 8分	<p>7 問題点を基に, 今後の携帯電話やスマートフォンなどの使用法を考え直す。 <まとめ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の携帯やスマートフォンの使い方は, 寝る前に暗い部屋で使うことが多いので寝る前には明るくする。</p> <p>夜遅くまで携帯をいじっていて朝起きるのが辛いので夜更かしをしないように早く寝るようにしたい。</p> <p>姿勢が悪い状態で長い時間携帯やスマートフォンを使用することが多いので, 正しい姿勢と使用時間を考えたい。</p> <p>食事中は携帯を使用しないで, 家族や友達との会話や交流を大事にしたい。</p> <p>今後使用することがあったら, 時間や姿勢に気を付けたい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・出てきたキーワードを掲示して自分の言葉でまとめられるようにする。 ・キーワード: 時間 携帯 姿勢など ・使用していない生徒には, 携帯電話やスマートフォンなどを, 今後所持したときのことを見据えて考えるよう助言する。 ・ワークシートに文章化し, 数名に発表させ全体で友達の考えを共有する。 <p>※ VDT作業が心身に及ぼす影響を知り, 自分の生活習慣を見直している。 (思考・判断 ワークシート 発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業で習ったことを今後の生活に生かせるよう助言する。



ICT 研修だより



平成 27 年 9 月 10 日
第 4 号

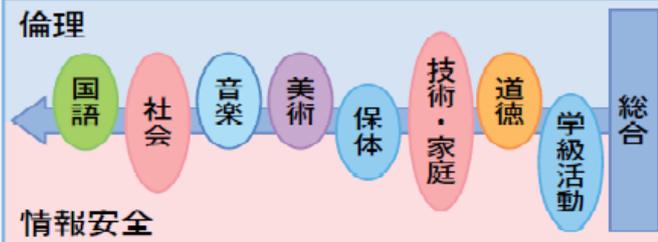
大子中学校
情報教育担当
柏 潤

各教科での情報モラル教育について

参考文献：情報モラル指導者研修ハンドブック

中学校学習指導要領総則の本文には「各教科等の指導に当たっては、生徒が情報モラルを身に付け…」と書かれています。解説では 3 点の目標が掲げられ、この目標を達成するために、6 つの学習活動が提起されています。

- ☑ 他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと
- ☑ 危険回避など情報を正しく安全に利用できること
- ☑ コンピュータなどの情報機器の使用による健康とのかかわりを理解すること



- ◆ ネットワークを利用する上での責任について考えさせる学習活動
- ◆ 基本的なルールや法律を理解し違法な行為のもたらす問題について考えさせる学習活動
- ◆ 知的財産権などの情報に関する権利を尊重することの大切さについて考えさせる学習活動
- ◆ トラブルに遭遇したときの主体的な解決方法について考えさせる学習活動
- ◆ 基礎的な情報セキュリティ対策について考えさせる学習活動
- ◆ 健康を害するような行動について考えさせる学習活動

各教科での指導内容について、カリキュラムチェックリストを確認してください。指導を行う教科等の例が例示されています。裏面には、「教育の情報科に関する手引(平成22年10月)」からの抜粋の資料を添付しました。各教科会で、指導内容の確認をお願いします。

●情報モラル指導カリキュラムチェックリスト

領域	分野	指導事項	指導を行う教科等の例		
			A	B	C
心を磨く領域	情報社会の倫理	情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する	保健 技・家(技術)	保健 技・家(技術) 特活	社会 外国語 道徳
		個人の権利(人格権、肖像権など)を尊重する	社会(公民) 美術 技・家(技術)	技・家(技術)	理科 外国語 道徳 特活
		著作権などの知的財産権を尊重する	国語 音楽 美術 技・家(技術)	国語 技・家(技術)	社会 理科 外国語
知恵を磨く領域	法の理解と遵守	違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない	技・家(技術)	保健 技・家(技術) 特活	社会 外国語 道徳
		情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る	技・家(技術)	技・家(技術) 特活	社会 理科 外国語 道徳
		契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する	社会(公民) 技・家(家庭)		社会
		公共的なネットワーク社会の構築	社会 技・家(技術)	数学 特活	社会 道徳 外国語
	安全への配慮	安全性の面から、情報社会の特性を理解する	技・家(技術)		社会 外国語
		トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る	技・家(家庭)	社会(公民)	技・家(技術) 外国語
		情報の信頼性を吟味できる		数学 理科 保健	国語 社会 技・家(技術) 外国語
		自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる	技・家(技術)	数学	外国語 技・家(家庭)
		健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	保健	保健 技・家(技術)	外国語 道徳 特活
	情報セキュリティ	自他の安全面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	技・家(技術)	保健	外国語 道徳
情報セキュリティの基礎的な知識を身につける		技・家(技術)		外国語	
		基礎的なセキュリティ対策が立てられる		技・家(技術)	外国語

指導可能な教科等の例

- A(ゴシック体 太字)
- B(ゴシック体)
- C(明朝体 斜体)

学習指導要領に指導内容として記載されている教科等
学習指導要領解説に指導内容として例示されている教科等
学習指導要領や同解説に指導内容として記載されていないが関連する内容として指導することが可能な教科等



ICT 研修だより



平成 27 年 10 月 19 日
第 6 号

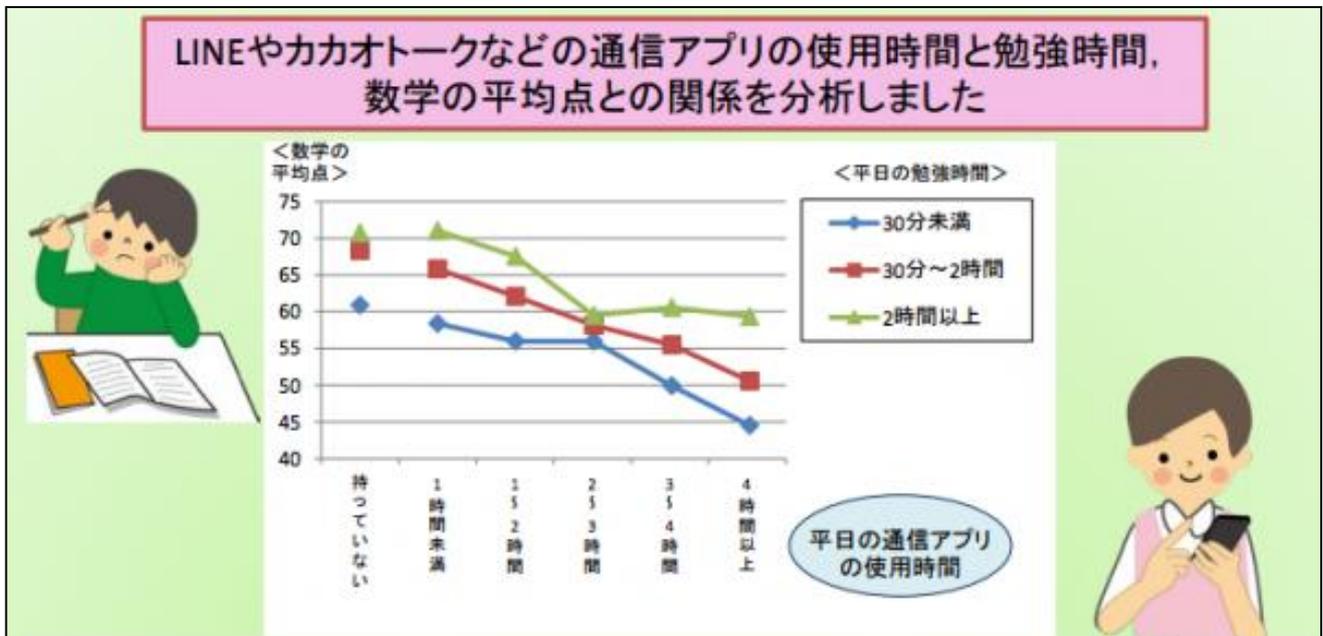
大子中学校
情報教育担当
柏 潤

「LINE を使う子供ほど成績が悪い」東北大学が研究結果を発表

2 学期の中間テストまでおよそ 2 週間です。10 月になり 1 年間の半分か過ぎました。3 年生は受験に向けて勉強に熱心に取り組んでいるでしょうか？下校時刻が早くなり、帰宅してからの時間が今まで以上に増えています。見出しのフレーズは、東北大の研究での結果からです。朝や帰りの会などで話題とし生徒に伝えてみてください。学習への取り組みを促していきましょう。

《以下抜粋》 <http://www.tohoku.ac.jp/japanese/2015/03/award20150319-01.html>

LINE などの無料通信アプリを使用すると使用時間が長いほど学力が低下、しかも平日の睡眠時間や家庭学習時間が長くてもテストの点数は下がっていく。東北大学と仙台市教育委員会による「学習意欲の科学的に関するプロジェクト」の研究結果が明らかにしています。2015 年 3 月 19 日に発表された研究結果によれば、LINE やカカオトークなどの通信アプリの使用時間と勉強時間、数学の平均点との関係を分析したところ、通信アプリの使用時間が長くなればなるほど成績が下がっている可能性が高いことが分かった。

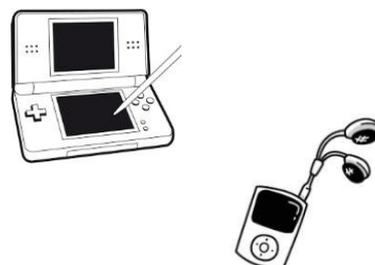


上のグラフは、仙台市標準学力検査における中学生の数学の平均点と平日 1 日あたりの通信アプリの使用時間との関係を平日の勉強時間ごとに示したものです。これによれば、勉強時間の長さに関わらず、通信アプリの使用時間が長くなるほど成績が悪化していることが分かります。プロジェクトの研究チームは、通信アプリの長時間使用により、睡眠時間や勉強時間が少なくなったために成績が低下したわけではなさそうだと分析。むしろ、平日のアプリ使用時間の長さ自体が、直接的に成績を下げる方向に作用し、平日の睡眠時間と勉強時間よりも強い影響力を有している恐れがあることが分かったとしています。この分析結果について、研究チームでは「非常に衝撃を受けた」とのことです。

今回の情報モラル通信で扱う内容は「フィルタリング」についてです。フィルタリングには、危険なサイトやアプリの制限以外の効果についてお知らせしたいと思います。

《インターネットに接続できる機器》

「Wi-fi（ワイファイ）」の普及をきっかけに、どこにいても高速でインターネットが楽しめる時代になりました。また、利用できる機会が増えるとともに、利用できる機械も増えました。インターネットに接続できる機器の代表と言えば、「パソコン」「スマートフォン」があげられます。その他にも、「Wii」「PS4」などのゲーム機、iPodなどの音楽プレイヤー、「PSP」「任天堂DS」などのケータイゲーム機などがあげられます。



トラブルの例として、DSのカメラ機能を使用して写真を撮り、それを友達の機器に送信してトラブルが起きる事例がありました。

《フィルタリングの仕組み》

「フィルタリング」という言葉は聞いたことはあるけれど、どのような仕組みなのかよくわからないという人がほとんどだと思います。フィルタリングは、以下の4つの仕組みが組み合わさって成り立っています。

(1) レイティング方式

ホームページに対して一定基準で格付け（レイティングと言います）しておくことにより、情報受信者がそのレイティング結果を利用して、受信者の価値判断でフィルタリングを行う方式です。情報発信者が自ら格付けする『セルフレイティング』と、第三者が格付けする『第三者レイティング』があります。

(2) ブラックリスト方式

有害なホームページのリストを作り、これらのホームページを見せないようにする方式です。

(3) ホワイトリスト方式

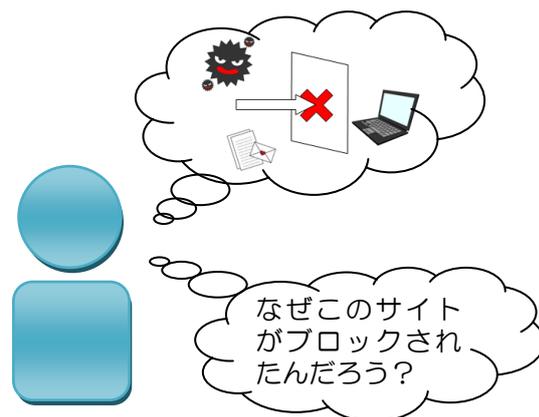
子どもにとって安全で有益と思われるホームページのリストを作り、これらのホームページ以外のページを見せないようにする方式です。

(4) キーワード/フレーズ方式/全文検索方式

有害なキーワードやフレーズをあらかじめピックアップしておき、ホームページを表示する前にその内容とこれらのキーワードやフレーズを照合することで、有害なページを見られないようにする方式です。

《なぜフィルタリングをするのか？》

フィルタリングには、大きく分けて2つの大きな役割があります。まず一つは、子供たちをアダルトサイト、犯罪を助長するようなサイト、薬物を勧めるサイトなどの有害なサイトから守るためです。もう一つは、そのサイトがなぜブロックされたのかを子ども自身が考えることによって、どのようなサイトやアプリが有害なのかを知るなど、ネットに対する知恵をつけたり、親子で話し合いをしてスマホの使い方を考え直したりすることができるためです。したがって、家族で話し合いをし、年齢が上がるにつれて、フィルタリングによる制約を緩めていくのも、子どもにとって大切なことなのです。



今回の情報モラル通信で扱う内容は「無線LANの危険性」についてです。無線LANって危険なの？・・・無料のWi-Fiスポットとは？・・・など、様々なことについて紹介したいと思います。

《無線LANの危険性》

スマートフォンやパソコン、ケータイゲーム機は無線LAN（Wi-Fi）を利用してインターネットに接続をすることができます。「家庭内でスマートフォンを使うなら、速度が早くて通信料のかからないWi-Fiの方が得で便利」ということになったり、無線ルーターも低価格化・高機能化が進んだりしたため、家庭内でのLANは無線LANが主流となりました。有線LANと無線LANの最大の違い。それは「無線LANは電波が屋外に漏れてしまう」という点にあります。特に一般住宅や共同住宅では、家の周辺や隣家などから電波を傍受できる場合があります。電波の特性上、漏洩を完全に防ぐことはできないため、ファイアウォールなど、無線ルーターにはさまざまな無線セキュリティ対策が施されています。ルーターの説明書を読んで注意事項を守っている限りはこのような危険はほとんどありません。しかし、インターネット上の怪しい情報を鵜呑みにしてルーターの設定を変えたり、あるいはIDとパスワードセキュリティーキーを簡単に推測できるものにしておいたりといった不注意があると無線LAN内は危険にさらされます。

《スマホをフィルタリングしているから安心？》

スマホを契約した時に、フィルタリングを設定したから安心と思っている人は注意が必要です。通常、スマホは、3GやLTEなどの、携帯会社と契約している回線でやり取りをしているので、フィルタリングがかかるはずなのですが、Wi-Fiは携帯会社とは回線が異なる電波でやり取りをしているため、スマホの設定によっては、通常フィルタリングがかかっているはずのサイトが見れてしまうことも少なくありません。（最近はフィルタリングのシステム上そのようなことは少なくなってきましたが・・・）そして、家にWi-Fiと接続する機器がなくても、「コンビニ」や「飲食店」には無料でWi-Fiに接続をすることができる「無料Wi-Fiスポット」というものが存在します。例えフィルタリングをしても、子どもが危険にさらされることがたくさんあるということを知っておきましょう。

《無料で使えるWi-Fiスポットが危険！？》

先ほども紹介した通り、コンビニや飲食店には無料でWi-Fiを使用できることが多いのですが、安全に利用できるスポットには、「会員登録」が必要だったり、利用をするための「パスワード」が必要だったりします。しかし、パスワードを入力しなくても接続できるものもあります。その中には、通信内容を盗み取ることを目的としたものもあります。そのような無線LANの利用により、氏名や住所、電話番号、クレジットカードの個人情報、友達のアドレスや電話番号が盗まれて悪用されることもあります。

実際に無料のWi-Fiスポットで起きた出来事を紹介したいと思います。

無料のWi-Fiスポットにて、インターネットに接続



知らない間に不正アプリを入れられる

（この不正アプリは、ホーム画面等には表示されず、スマホの持ち主が何をしようとも内側のカメラで定期的に無音で写真を撮り、サーバーを経由して特定の人にデータが送られるという恐ろしいもの・・・）



個人情報を抜き取られ、被害にあってしまった

という、とても恐ろしい事件も起きています。

情報モラルについて

平成 25 年度携帯電話・インターネット利用に関する実態調査（県教育委員会）

高校生の平日 5 時間以上の利用 11%，LINE 利用 70.8%

インターネット利用による日常生活への影響有り 51%

（うち 勉強する気にならない 25.8%）

未成年の携帯電話・スマートフォン利用実態調査（デジタルアーツ調べ）

スマートフォンのフィルタリング使用率 48.2%

1 日平均使用時間 男子高校生 3.8 時間 女子高校生 5.5 時間

使用することになってからの経験 寝不足 25.2% 体調不良 17.5%

インターネット上での違法行為 罰則があることを認識 女子高生 35.9%

認識が低いもの 他人を侮辱すると訴えられる 違法行為の仲間を侮辱すると捕まる

スマホに係るトラブル事例

LINE はずし（いじめ）（県内高校生学校裏サイトで中傷脅迫で退学 2008 年提訴）

歩きスマホ族を狙った当たり屋

自転車に乗りながらスマホを操作する人はもちろん、スマホを手にもっているだけの歩行者もタ

ーゲットにされているらしい。ケガをした、モノが壊れたと言っては損害賠償を請求してくる。

オンラインゲームによる課金

親のクレジットカードを無断で利用してアイテム購入

健康への影響と学習時間の減少による問題

LINE を使うほど学力低下、勉強・睡眠時間の長さよりも強い影響 東北大が公表

http://www.tohoku.ac.jp/japanese/newimg/awardimg/award20150319_01.pdf

スマホ依存による健康障害

依存、禁断症状、鬱病、パニック障害、肩こり、頭痛、視力低下、小指変形

生徒が主体となってルール作りをした例（兵庫県）

県立姫路飾西高校生が、近辺高校生に実施したアンケートをもとに、自分たちで「スマホ使用ガイドライン」を作成し、教員対象の報告会で発表

明石、明石北、明石清水、明石商業、明石城西、明石西、明石南の各高校の生徒会が垣根を越えて SNS の健全な利用環境作りを検討。学校毎に SNS は午後 11 時以降使わない、「また明日」の合い言葉で会話を切り上げる等のルールを制定し、「生徒会 7 校連合通信」に掲載

スマホ・携帯電話等の利用上の注意

画面のロックをかける。

公共の場ではマナーモード

LINE 利用上の注意点

「友だち自動追加」「友だちへの追加を許可」をオフ

LINE ID を知らない人に教えない、書かない。

「ID の検索を許可」をオフに

パスワードロックをかける。

知らない人から連絡が来た場合はブロック、通報

不快なメッセージや書き込み等への対応

書き込み内容の確認（デジタルカメラで撮影）、管理人・プロバイダに削除依頼

警察・法務局に相談→削除を確認 生徒・保護者等へ説明

ネット上のいじめに関する対応マニュアル

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/11/08111701/001.pdf/

情報モラル（教師のための著作権クイズ）

- 1 授業での使用を目的に教師が著作物を使用する場合は、無条件で著作権者の許可なく複製してもよい。
- 2 卒業アルバム用に業者が撮影した写真を「学校要覧」など学校が発行する冊子に使用する場合は、業者への許諾は不要である。
- 3 こどもの興味をひくように、教師自身が手書きしたミッキーマウスを用い、授業用の学習資料を作成した。この場合、使用の許諾は不要である。
- 4 国語の授業時間に子供が作った詩を学年便りに掲載する場合、子供の許諾なしに使用出来る。
- 5 運動会でキャラクターを描いた応援旗を作成、使用するのに、キャラクターの著作権者の許諾は不要である。
- 6 レンタルビデオ屋で借りてきたビデオを学校の授業で児童に見せるのは問題ない。
- 7 修学旅行の歌集を作る際、歌詞を掲載するには著作権者の許諾が不要である。
- 8 撮影時に BGM が入ったビデオを保護者に配付するには、BGM の著作権者の許諾は必要ない。

参考 著作権法第 35 条ガイドライン

<http://www.chart.co.jp/subject/joho/inet/inet10/inet10-1.pdf>

学校現場での著作権に関する Q&A

<http://www.kjpaa.jp/wp/pdf/research/070404gakko.pdf>

情報モラルの研修をするためのサイト

5分でわかる情報モラル（教員研修向け）

情報モラル教育の必要性と教育全体での位置づけ、指導方法などを約5分の映像でわかりやすくまとめたビデオや情報モラル指導実践キックオフガイドブック等、情報モラルを指導するにあたっての基本知識を身につけることが出来る。

http://www.nctd.go.jp/5min_moral/index.html

情報モラルの指導で利用できるサイト

【情報モラル全般】

・ やってみよう情報モラル教育

情報モラルに関する資料および実践事例多数

<http://jnk4.info/www/moral-guidebook-2007/>

・ ネット社会の歩き方

オンラインショッピングの疑似体験やネットいじめは人権侵害等の教材有り

<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>

・ みやぎの情報モラル総合サイト

情報モラルの教育実践多数

（指導パッケージ、家庭との連携、保護者対象、事例紹介）

<http://midori.edu-c.pref.miyagi.jp/moral/sido-page/20p-page/h1-02.html>

【動画教材】

・ ネットトラブルから自分を守ろう！

ケータイ・スマホのつきあい方 デジタルタトゥー バカッター問題
リベンジポルノ ネット上の出会い ルール作りが大切

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/netdougua/index.html>

・ ポリスチャンネルビデオライブラリー（サイバー犯罪）

陽だまり家族とパスワード 情報を漏らしたのは誰だ？ 絆で撃退

検証！合うスマートフォンのワンクリック請求 あなたの知らないネットの裏側

<http://www.police-ch.jp/video/3/> （DVDもあり）

【シミュレーション（体験型）教材】

・ インターネットの危ない世界 Part2～君も体験！スマートフォン・タブレット編

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/0207/intsm/>

【トラブル事例教材】

・ トラブル事例に学ぶスマートフォン安心ガイド

（悪ふざけを SNS で公開、見られたくない写真がネット公開

いじめがネットでエスカレートに 自転車の乗りながらスマホ操作 等）

https://www.nttdocomo.co.jp/corporate/disclosure/moba-ken/safety_guide/

・ “架空の LINE いじめ” を表示したサイト

LINE での会話について生徒に考えさせる

<http://linelog.jp.org/>

【健康面からのアプローチ】

・ インターネット Addiction 依存症

ネット依存による問題

<http://angels-eyes.com/index.htm>

・ ネット依存の簡単チェック

10の質問項目でタイプをチェック

気をつけてほしいことも掲載

<http://www.daj.jp/cs/sp/izonchk/>

・ 情報モラル診断サービス <https://www.netmoral.net/>

生徒一人一人が25問の間に答えていく診断サービス。各個人の得点とポイントの解説がある。さらに、教師画面でクラスの状況等を確認可。

【その他】

・ 「歩きスマホ」のリスク社会ーあなたも被害者・加害者になるかも

ニッセイ基礎研究所「研究員の眼」モラル・ルール

http://www.nli-research.co.jp/report/researchers_eye/2013/eye130603-2.html

回収枚数 27

1 情報モラルの職員への研修を実施するとしたら、どのような方法が良いですか(複数回答可)

ア 職員会議等での短時間での報告研修	14	33%
イ 情報モラルのみ1時間程度で行う研修	9	21%
ウ 情報モラル通信のようなペーパーの配付による研修	11	26%
エ 生徒に対するケータイ安全教室のような行事への職員が参加	8	19%
オ その他()		

2 情報モラル職員研修会を実施するとしたら、講師はどのような方がよいですか。(複数回答可)

ア LINE等の業者による研修	17	49%
イ 県警生活安全課による研修	4	11%
ウ 消費生活センター等消費者団体等による研修	8	23%
エ 本校教員による研修	6	17%
オ その他()		

3 情報モラルの生徒への指導をするには、どのような場面がよいと考えますか。(複数回答可)

ア 道徳の時間(1年次のみ)	11	23%
イ LHRで年間1回情報モラルの時間を設定する	10	21%
ウ 全校集会で情報モラルに関する時間を設ける	7	15%
エ 全校で1時間程度、研修する時間を設ける	3	6%
オ 進路通信や保健便り等の既存の通信で問題等を伝える	7	15%
カ 情報モラル通信等の情報モラルに特化した通信で問題等を伝える。	2	4%
キ 各年次通信で問題等を伝える。	6	13%
ク その他()	1	2%

情報の授業

4 情報モラルの保護者との協力体制を整えるためには、どのようなものを実施するのがよいですか。(複数回答可)

ア PTA総会時による研修	15	39%
イ 各年次PTAによる研修	9	24%
ウ 保護者向け情報モラル通信	8	21%
エ 授業公開時に情報モラルの授業を行う	5	13%
オ 学校評価調査時にアンケートを実施し、結果をフィードバック	1	3%
カ その他()		

5 情報モラルに関する各先生方の自主研修について(複数回答可)

ア 情報モラルに関する動画サイトを見たことがある	2	6%
イ 情報モラルに関するサイトを見たことがある	11	31%
ウ 新聞・ネットニュース等で情報モラルに関する記事を意識的に見ている	15	43%
エ 情報モラル等の校外の研修会に参加している	5	14%
オ 情報モラルに関する専門書を読んで研修している	1	3%
カ その他()	1	3%

自分自身の情報モラルに関する意識が低い

※以下の記事を読んで思ったことやLINEに対する皆さんの意見を書いてください。

<アイツ誘ったの誰？>

<参加されたら本音でしゃべれなくなるね>

<外そうよ>

佐賀市内の高校に通う2年生の秋月さん（17）＝仮名＝はスマートフォンの無料通話アプリ

「LINE」に次々と書き込まれていくメッセージを見て焦った。

「早く何か返さなきゃ」「本当は仲間外れなんかに加わりたくない」それでも、みんなに同調するように

<そうね> と返信した。

秋月さんのクラスでは41人中33人がスマートフォンを持ち、誰もが参加できるLINEのグループがある。

書き込まれたメッセージはみんなが共有し、まるでテーブル談議している感覚だ。新たに参加申請をしてきた

“<アイツ>”は、クラスで少し浮いている女子生徒。 <外そうよ> に異論は出なかった。

--中略--

秋月さんはクラスや学年単位、部活、中学の卒業生など、ほぼ顔の分かる友達と計17のLINEのグループに参加している。メッセージのやり取りのピークは午後10時から午前0時ごろ。

<何しよる？>

<ドラマに出てる〇〇かっこよくない？>

<かっこいい>

たわいない会話だが、「リアルタイムでつながっている感じ。あっという間に1、2時間過ぎる」という。

ただ、それは気の置けない仲間同士の間だけ。グループが大きくなればなるほど、「空気を読む」ことが求められる。LINEはメールと違い、送信相手が読んだかどうか表示される。「返事をしないと、無視したと思われるのが怖い。返信し続けることが苦痛な時もある」

LINEをしていない一部の生徒は翌日の会話についていけない。「昨日の続きだけどさ」。そんな話題に無理に入ろうとすると、「イチから説明したくない」と突き放される。以前、秋月さんは成績が落ちたのを理由に母親から午後10時以降、スマホを取り上げられたことがあった。「友達に取り残されないか、すっごく焦った。死に物狂いで勉強して次の定期テストで成績を上げた」ほどだ。

「子どもたちはネット上の『つながり』や『絆』を口にするけど、結局は仲間うちで嫌悪感を共有し、悪口を言い合っているだけ、というケースも少なくない」。

--中略--

「LINE外し」が行われた翌朝。秋月さんが教室に入ると、クラスメートたちは締め出された生徒と当たり障りのない会話をしていた。でも、昨夜の出来事が頭から離れない。いつもと違う重苦しい空気が漂っていた。指先の操作一つで左右される「つながり」。あの時、もしみんなの意見に反対していたらー。

「きっと私も外されていた」

--以下省略--

2013年10月7日 佐賀新聞社提供

LINE って実際どうなの？（回答編）

このやり取りは実際にあったトークではなく、皆さんの回答をもとに勝手に会話形式に変えたものである。都合により言葉のニュアンスを若干変更しております。あらかじめご了承ください。

「ねーこの記事よんでどう思った？」

「気持ちは理解できるなあ・・・仲間外れは嫌だし」

「LINE をうまく使えてないよね。」

「早く返さなくちゃ！」って思うことがおかしいよ。」

「でも、自分も既読つけると「早く返さなきゃ」って思うよ「既読無視？」なんて聞かれることもあったし・・・」

「そんな雰囲気になりがちじゃないの。」

「周りにも原因があるよね。」

「そんな問題だらけならLINE なんてやらなきゃいいのに」

「そうそうLINE なんてなくなっちゃえばいいんだよ」

「でもLINE ってほんと便利だよなあ」

「その便利さが苦なんだよ！空気読まない仲間外れ。やり取りしてないと次の日仲間はずれ。そんなんでやりすぎると成績が落ちる。まじ悪循環！！」

「でも、そんな奴ら俺らの周りでは見たことないぞ！

小学生以下だろ！ケータイ持つ資格なし！！」

「どーせ授業中も使ってるような人なんだろうね。」

「私は、今現在は起きてなくてもいつでも起こりうることだと思うなあ。自分で起こす可能性だってあると思うよ。」

「相手の気持ちを考えないとだめだよ。」

「現に私はLINE 無視されて、苦痛だった・・・」

「私もあった。」

「友達も辛そうだったよ。」

「俺は無視されて苦痛だったから退出した。」

「いきなり返信が来ないと不安になることってあるよね。」

「でもなぜすべてのメッセージに返答しなければいけないの？理解に苦しむ。」

「 「返事がない=無視」 というように決めつけるのはよくないことだと思う。」

「忙しい時だってあるし、返事しづらい内容ってあるじゃん！」

「本当に忙しくて読めなかったのにそれでいじめられるとかありえない。」

「やっぱり直接会って伝えることが大切だよな」

「普段口に出して言えないことも SNS では言えるという人は多い気がする。
私もその中の1人かもしれない。」

「社会の人々の会話が減ってきていると思う。」

「もっと自分の意見をぶつけるべき。」

「ネット上のつながりは大したつながりではなく直接会ってコミュニケーションをとり、笑ったり怒ったりするのが仲良くなることだと思う。」

「友達といる時はスマホの相手とではなく、目の前にいる相手と会話をし、
信頼性を高める場にしてほしいよね。」

「そもそもなんでみんなそんな繋がりを求めるんだ？」

「やっぱり LINE をやっていないと、周りに遅れを取っているような気分になる。だからじゃない」

「LINE をやっていない人は話題に入れないのは事実。」

「最初は友達といつでも、便利に連絡が取れると思っていたけど、だんだん近すぎる繋がりに、嫌気がさしてきているのも事実…」

「いつでもつながれていつでも切れる関係をつくるのが SNS な気がする。」

「なんか怖くなってきた。」

「ケータイを持っていなかったことを思い出すと、学校で目と目を合わせて会話をしていたが、今は少ない気がする」

「人と人との会話がなくなってしまうかと思うと不安だね。」

「ネット上のつながりは大したつながりではなく、やっぱり大切なのは直接会ってコミュニケーションをとり、笑ったり怒ったりすることだよね」

情報科（社会と情報） 学習指導案			
平成27年6月26日（金） 第6校時		1年6組 指導者 中村 圭吾	
実施場所	パソコンF室	教科書名	高校社会と情報（実教出版）
単元	第1章 情報社会 2 社会の変化と個人の責任		
単元目標	多くの情報が公開され流通している現状を認識させるとともに、情報を保護することの必要性とそのための法規及び個人の責任を理解する。		
指導計画	1 情報化と生活の変化 2 ビジネスの変化 3 インターネットの特質と個人の責任 4 インターネットを通じた売買での個人の責任 5 インターネットでのコミュニケーションの心構え（本時） 6 携帯電話のマナー		
本時の目標	情報発信をするときに、意識的または無意識にせよ、他人に対して攻撃的になってしまうことがある。それがきっかけとなりトラブルに発展しないための対策を知る。		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上でのコミュニケーションルールを考えることができたか。（思考・判断・表現） トラブルに発展しないための対策を知ることができたか。（知識・理解） 		
準備資料	授業用スライド，ワークシート		
学習活動の内容	時間	指導上の留意点	
導入	7分 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> LINEについて簡単に説明する。 Webアンケート機能 Mentimeter を使用 	
展開① A～F グループ	3分 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> 無料のコミュニケーションアプリの利便性と弊害について知り、自ら利用の仕方を考える。 グループ，班の構成を理解しやすく示す。 	
	15分 (グループ)	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで出された意見すべてを各自が付箋紙に書き取り、自分の意見として、次の班に生かせるように助言する。 意見が出尽くした場合には、インターネット等で事例を検索し加えるように指示する。 	
展開② ①～⑥ 班	12分 (グループ)	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの班には、LINEの良い点，悪い点，トラブルが持ち寄られているので、それぞれグループから出された意見を十分に話し合うように指示する。 	
発表	8分 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> 他の班と同じような内容であっても、班独自の意見として、「～と同じ」というような発表はしないことを助言する。 よいものについては賞賛する。 	
まとめ	5分 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> SNS等の利用上での問題が多発する中で、まずは、自分たちの決めたルールを守ることが、安全利用につながることを理解できるように伝える。 	

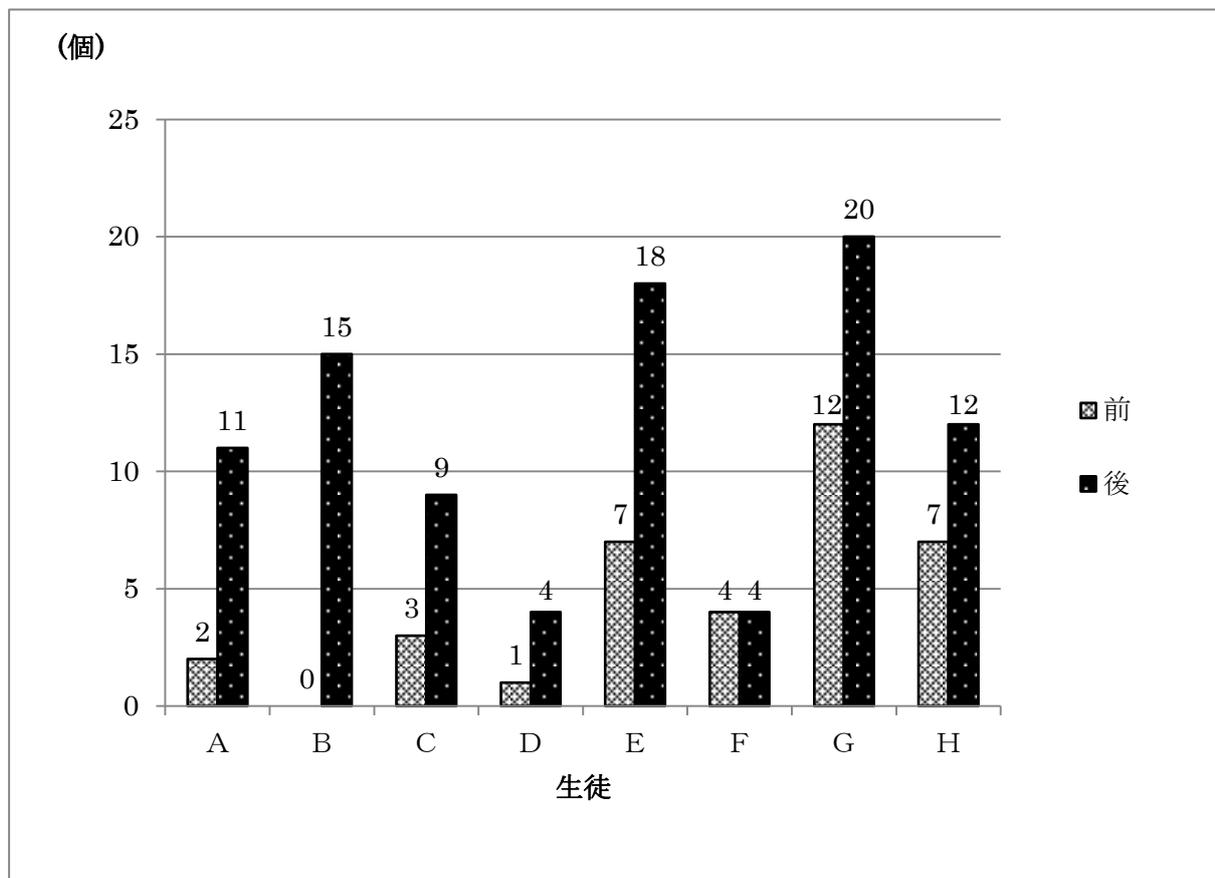


図3 情報モラルと関連し知っている言葉の変化（中学部3年生徒8人）
（授業開始前：平成27.5.20実施 授業開始後：平成27.10.7実施）

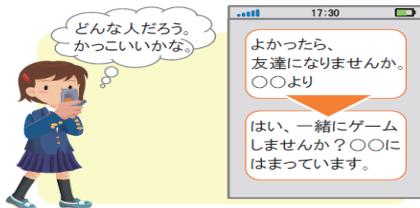
情報モラルについて考えよう

月 日 氏名()

こんなことがあったよ

原因

ミニメールで仲良くなった男性と会ってしまう



中学3年生(女子)のAさんは、ゲームサイトを利用していました。ゲームサイトでは、ミニメールと呼ばれる機能で、見知らぬ人も簡単に連絡を取ることができました。ある時、Aさんは、ミニメールで仲良くなった男性と会ってしまいました。

結果

会った人から執拗に脅迫され性的被害に



その後、Aさんは男性に、執拗にメールで脅迫されました。仕方なく、再び男性に会いに行ったAさんは、男性から性的被害を受けてしまいました。

総務省「インターネットトラブル事例集」より引用

どうして、こうなったのかな？

あなたならどうする？

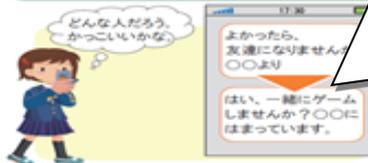
* 書き終わったら友達の見聞も聞いてみよう。

情報モラルについて考えよう

月 日 氏名()

こんなことがあったよ

原因
ミニメールで仲良くなった男性と会ってしま



中学3年生(女子)のAさんは、ゲームサイトを利用していました。ゲームサイトでは、ミニメールと呼ばれる機能で知らない人とも簡単に連絡を取ることができました。Aさんは、ミニメールで仲良くなった男性と会ってしま

説明文に加え、生徒が今まで体験したことや実際の事件などを挙げ、生徒がイメージしやすいようにした。一番上の欄にトラブルを記載し、考えていく形式を繰り返すことで、最初にトラブルがあり、それについて考えるという思考の流れができてきた。

文の読み取りの難しい生徒には、簡単な文に置き換えて提示した。文だけでイメージが難しい生徒には、実際にスマートフォンを使い体験を交えながら説明した。

どうして、こうなったのかな？

上記のトラブルを読んで、

「**かかってに仲良くなった男性と会ってしまったからです。**」

「**Aさんに会ったから」「メールをした事。場所に行って会ってしまった事。**」

など、生徒が考えて記入した。

一人だけでは記入が難しい生徒には、教師がトラブルの中で注目するところを伝えたり、生徒が感じたことを聞き、その理由についても考えられるよう言葉かけを行ったりした。(例えば、「怖いです」に対し「どうして怖いと思ったの」「どうして、そうなったのかな」など)

あなたならどうする？

「**知らない人とはメールをしない**」

「**家の人に相談する」「メールが来ても無視する。警察に言う。**」

など、それぞれ生徒が考えて記入した。記入後に、発表し合う時間を設定した。友だちの発表を聞き、自分では気が付かなかったことにも気付けるよう、「○○君は○○といっているけれど、どう思う。」と言葉かけをした。

学習のまとめの時間に、今日学習したことが、身の周りでもあるのか、どう自分と関係するののかについて考える時間を設定し、できるだけ身近な問題として考えられるよう促した。

※太文字・ゴシックは、生徒の考え

※太文字は、教師の支援

最初は、読み取りや上記の設問に自分で考え記入するのが難しかった生徒も、同じ形式のプリントを使い繰り返し学習する中で、「ここには、どうしてこうなったのかを書く」「ここには、どうすればよいかを書く」と見通しをもちながら記入することができるようになってきた。形式を決めて繰り返し学習を行うことが、知的な障害のある児童生徒にとっての分かり易さにつながったと考える。